

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	A	子育て世代に選ばれる地域の創造	プロジェクト	2	教育再生による確かな成長の支援	施策	1	特色ある教育による知・徳・体の向上
目的	本市の教育環境や地域資源を活用した「時代の変化に対応した能力と学力の向上」、「規則正しい生活習慣の定着」、「社会や地域の中での豊かな体験・経験の充実」等の事業を地域と一体となって推進することにより、子どもたちの知・徳・体の成長を支援します。							

2 施策の指標における成果

生涯学習部に関する指標なし

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	・青少年育成施設運営事業は、施設を現状維持とした場合、所有者との協議が必要であり、また、市も応分の負担が必要となることが見込まれることから、重点化事業に位置付け、事業の費用対効果を検討の上、存続又は廃止(他の民間団体へ委託)を決定していく。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	・青少年育成事業におけるジュニア・リーダーでの活用は、事業継続することによる人数の増加や、経験者へのスキルアップ機会の提供など、推進主体となるための支援が必要。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ③	社会や地域に親しむ心の育成	手段	子どもたちが、個性や能力を発揮し、自らの夢の実現に向けて意欲的に取り組む様々な体験学習を推進します。また、学校と家庭、地域が連携した教育体制の充実を図ることで、子どもたちの社会や地域に親しむ心を育成します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費(千円)			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	青少年育成事業	社会教育スポーツ課	7,911	8,716	9,060		拡充	拡大
2	青少年育成施設運営事業	社会教育スポーツ課	2,634	2,558	4,498	○	拡充	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

5 施策の評価(事後評価)

施策指標の要因分析	—
施策の定性評価	・青少年育成センターの「見守り」を中心とした活動が定着し、子ども達が安心できる環境づくりが図られた。 ・「ジュニアリーダー養成講座」や「情報モラル講座」により、子どもたちの体験・経験の充実を図った。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	青少年育成事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	青少年(小学生・中学生・高校生)				施策体系	2-1-3			
	意図	地域における児童の自主性及び社会性の向上を図るとともに、地域の活動の中心的役割を担う青少年を育成する。				新規/継続	継続			
手段	市内の子ども会育成会活動を促進するための補助金交付、次代の子ども達を牽引するリーダーを育成するジュニア・リーダー養成事業の実施及び青少年育成センターによる子ども会活動への参加				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加		○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ミシャワカ市青少年派遣事業補助金交付(補正予算対応)		○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ながの子育て家庭優待パスポート事業発送業務					
事業費・財源	決算額	(千円)	7,911	決算額	(千円)	8,716	予算額	(千円)	9,060	
	青少年育成委員報酬		594	青少年育成委員報酬		535				
	青少年問題協議会報酬		0	青少年問題協議会報酬		0				
	青少年健全育成事業補助金		4,899	青少年健全育成事業補助金		4,897				
	その他		2,418	その他		3,284				
	特定	0	一般	7,911	特定	0	一般	8,716	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	ジュニア・リーダー養成事業卒業生(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		37	37		
実績値(事後評価)	37	37	50		
目標値		65	80	95	
評価指標(単位)	青少年育成センターが主催する出前講座の実施回数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		4	2		
実績値(事後評価)	0	4	2		
目標値		3	3	4	

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		
総合評価	B			成果	拡充
				コスト	拡大

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・R2-3年度と中止していたジュニア・リーダー養成事業は、研修内容の見直しを行い6月から事業を開催した。R4年度は13名の募集があり、全6回のうち3回が完了しており、後期は残り3回を実施する。 ・R3年度から実施した情報モラル講座は、R4年度は3地区(塩尻東、高出、宗賀)において実施する。前年度より多い参加者の応募があった。 ・隔年で行われているミシャワカ市青少年派遣事業は、今年度実施に向けて募集をかけたところ、3名の募集があった。補正予算措置や事前研修会等を行い、渡航に向けて準備を行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・リーダーの卒業生の第一期生は中学3年生～高校生となっており、学校生活や私生活においても多忙であり、ジュニア・リーダーへの活動参加が難しいという意見を保護者などからいただいている。今後は卒業生の中から自発的に事業に携わっていただけるメンバーを探していく必要がある。 ・青少年育成委員の活動として、主にあいさつ運動、通学路やゲームセンター等の巡回、有害環境チェック運動があるが、最近では巡回活動において目立った報告がないため、育成委員の負担軽減として更なる活動回数の見直しを実施しても問題ないと思われる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・県からの依頼で「ながの子育て家庭優待パスポート」関連業務があり、パスポート更新作業分の予算計上が必要となる。通常版は14,000枚、多子世帯用は2,000枚の印刷及び発送を予定しており、印刷製本費と郵便料が新規で必要となる。 ・通年で実施している業務では、細かい部分の予算見直しを行い、R5年度事業費を予算要求する。

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・リーダー養成事業は、研修内容の見直しを行い6月から事業を開催した。13名の募集があり全6回の講座を実施した。 ・R3年度から実施した情報モラル講座は、3地区(塩尻東、高出、宗賀)で実施した。前年度より多い参加者の応募があったが、新型コロナウイルスの影響もあり、当日の欠席者も多かった。 ・隔年で実施しているミシャワカ市青少年派遣事業には、3名が参加した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・リーダー養成講座を通じ、参加した児童は、リーダーとしてまわりを思いやるなど新たな気持ちで育まれ、一定の成果があった。 ・情報モラル講座については、インターネット等を使用する際の注意点、プログラミングの基礎などを学び、情報化社会の知識向上に寄与した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア・リーダー養成講座がコロナ禍で中止または縮小になったことにより、学生の養成が2年間でできず、卒業生によるリーダー会の活動が停滞している。 ・都市交流協会が解散したため、隔年実施しているミシャワカ市青少年派遣事業のあり方について、今後検討していく必要がある。

第1次評価	・提案どおりとする。									
第2次評価	—									
作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	主任	氏名	杉本 千鶴	連絡先(内線)	3151	
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	共生推進係長	氏名	三浦 恵美子			

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		青少年育成施設運営事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市内外の青少年を主とした施設利用者				施策体系	2-1-3				
	意図	青少年が「社会を生きぬく力」を身につけるための体験学習の環境を提供する。				新規/継続	継続				
手段		塩嶺体験学習の家の維持管理、運営				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営		○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営		○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営						
事業費・財源	決算額	(千円)	2,634	決算額	(千円)	2,558	予算額	(千円)	4,498		
	電力使用料		423	電力使用料		501					
	営繕修繕料		326	樹木管理委託料		0					
	その他		1,885	その他		2,057					
	特定	0	一般	2,634	特定	0	一般	2,558	特定		一般
業務量(人工)	正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規		会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	塩嶺体験学習の家青少年育成団体の利用率(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0.0	0.0	
実績値(事後評価)	0.0	0.0	0.0	
目標値		70.0	70.0	70.0
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	④
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能維持に必要な修繕を行った。 令和5年度の利用開始に向け運営内容を見直し、令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、本館のみ宿泊を含む通常利用を可能とした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響により、宿泊利用を停止したため施設利用がなかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 下水処理の合併浄化槽への転換、施設の老朽化等により施設修繕及び工事が必要であり、多額の費用負担が見込まれる。今後の施設運営について施設の所有者と協議し、方針を決める必要がある。 R5年度で施設の賃貸借を終了し、代替として民間施設の利用を促していく。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能維持に必要な修繕を行った。 新型コロナにより、前年度から引き続き本館のみの運営とし、宿泊利用は受け入れず、日帰りのみの利用とした。 今後の利用について、所有者との協議は進んでいない。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、雨漏れ等問題は生じていないが、例年、台風シーズンに問題が生じるため、状況の把握に努める。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 新年度の利用についても、新型コロナウイルスの感染状況及び施設の状態を見ながら判断する。下水処理を合併浄化槽へ転換する必要があり、多額の費用負担が見込まれる中、今後の施設運営について施設の所有者と協議し、方針を決める必要がある。R6年度には施設の賃貸借を終了し、民間の施設を利用していただくようにしたい。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> 提案どおり、R5年度をもって賃貸借契約を打ち切る方向性で施設所有者と協議すること。なお、樹木管理委託料についてはR元年度～R3年度まで予算執行がないことから皆減とする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	清水 柚果	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長		社会教育係長	氏名	清水 佳美	

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	1	観光の振興
目的	観光資源の効果的な発信、観光客と市民の交流支援、国際化への対応等を行うことで、外国人も含めた観光客の市内への滞在時間の延伸を図ります。また、歴史的資源を次世代へ継承すべき財産として、価値を高めるよう適切かつ持続的に保存するとともに、観光の集客核として活用していきます。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	檜川地区文化施設入館者数	14,611人 R1	9,591人	13,364人	15,000人
市民	奈良井・木曾平沢の重要伝統的建造物群保存地区の町並みを誇りに思う市民の割合	73.5% R2	78.3%	78.3%	76.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構 成の変更等につ いて)	・檜川地区文化施設運営事業を最重点化事業に位置付け、各施設を入館者が安全に見学できるよう維持管理に努める。特に、贅川関所については施設周辺の柵が倒壊しているため、早急に対応する。
役割分担の 妥当性 (市民や多様な 主体との連携 の方向性につ いて)	・重伝建地区の継続した修理修景事業は、地域振興や観光に寄与しているとともにその町並みはそこに住まう人々の誇りにもなっている。今後も行政として支援できることを見極め地域住民と協力で保存・活用を推進していく。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三		
施策担当課長	所属	文化財課	氏名	中村 琴江	所属	平出博物館	氏名	小松 学

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ②	歴史的資源の保存と活用	手段	事業費			重点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	文化財保存活用地域計画策定事業	文化財課	4,358	7,872	407	△	拡充	縮小
2	重伝建整備事業	文化財課	20,747	18,389	19,973	△	現状維持	縮小
3	檜川地区文化施設運営事業	文化財課	14,060	15,600	19,737	◎	拡充	拡大
4	平出遺跡公園事業	平出博物館	7,484	7,217	8,986		拡充	拡大
5	埋蔵文化財保護事業	平出博物館	8,529	8,789	15,677	○	拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

5 施策の評価(事後評価)

施策指標の 要因分析	・令和4年度はコロナ禍以降初めて行動制限のない1年となり、また全国旅行支援など国の対策により、観光客が増加し檜川地区文化施設入館者数は令和3年度より約40%の増加となった。 ・重伝建地区の町並みを誇りに思う市民割合が高いのは、長年に渡る継続的な修理修景事業実施に併せ、地域住民の想いや誇りにより伝統的な町並みが維持できているためと考える。
施策の 定性評価	・文化財保存活用地域計画は、行政はもとより地域全体で取り組み、本市の10年後、20年後を見据えた文化財保護行政の方向性を定める計画であり、文化財の再認識、地域への愛着を高めるとともに、地域振興に寄与するものである。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	文化財保存活用地域計画策定事業				担当課	文化財課				
目的	対象	文化財所有者及び管理者、文化財を活用する住民等				施策体系	4-1-2			
	意図	文化財の保存と活用に関する10年間の長期計画の作成、文化財の積極的な保存と活用の推進				新規/継続	新規			
手段	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の現状把握 保存と活用に関する課題の抽出と今後の方針 保存と活用に関する措置と推進体制の構築 				会計区分	一般				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等の現状把握 協議会の設置及び開催 住民アンケートの実施 地域計画の作成 		<ul style="list-style-type: none"> 文化財リストの作成 協議会の開催 パブリックコメントの実施 地域計画本文の作成 計画内の措置について、庁内関係課・地元歴史関係団体から聞き取り 		<ul style="list-style-type: none"> 計画認定に向けた文化庁との調整 地域計画印刷 【文化財管理事業(評価対象外事業)に統合】 					
事業費・財源	決算額	(千円)	4,358	決算額	(千円)	7,872	予算額	(千円)	407	
	協議会委員報酬		34	協議会委員報酬		47				
	普通旅費		68	普通旅費		68				
	費用弁償		62	費用弁償		49				
	計画策定業務委託料		4,180	計画策定業務委託料		6,930				
	その他		14	その他		778				
	特定	3,815	一般	543	特定	4,380	一般	3,492	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.69人	会計年度	0.11人	正規	0.69人	会計年度	0.11人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	策定協議会の開催数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1	1		
実績値(事後評価)	-	2	3		
目標値		2	2	2	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	④
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻市文化財保存活用地域計画の作成を実施した。作成にあたり、策定協議会を3回開催し審議を経たほか、文化財保護審議会での意見聴取やパブリックコメントによる市民の声の把握、庁内調整、教育委員会、市議会常任委員会への報告、文化庁の指導・助言などを受け策定を進めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 本市において文化財の保存と活用に関する初めてのマスタープラン及びアクションプランである文化財保存活用地域計画を策定することができた。 策定過程において、指定・登録以外の多くの地域の宝を把握することができ、併せて市民の文化財に対する潜在意識の把握ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 本市の文化財に対する一般市民の認知度が低いため、作成した計画の内容について周知を図ることで、本市の文化財の価値や魅力を伝えていくことが必要である。 文化財所有者や担当課だけでなく、庁内他部署や地域住民、関係者など多様な主体によって、文化財を保存活用する取り組みができるよう促していくことが重要である。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 関係する部署や外部団体への聞き取りを行い、措置一覧としてまとめることができた。 策定協議会を6月に開催し、計画本文の作成を進めることができた。(序章から第4章)
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 本計画は、R5年7月の文化庁認定を予定しているが、R6年度を始期とする第六次総合計画と連動する計画とするために企画課をはじめ他部署との調整、連携が必要である。 市における地域計画案の完成は3月、その後文化庁へ申請を行うが、地域計画案は計画認定の過程において文化庁及び関係省庁などにも回覧されることになるため、R5年度も認定を得る7月までは内容等の細かな調整が必要となる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 計画認定を得るまでの調整に対応するため、来年度についても委託業務の経費を要望したい。 認定後の計画の冊子及び概要版の印刷製本費を要望する。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> R2年度行政評価で示したとおり、計画策定に関する委託料の予算計上は今年度までとする。計画認定を得るまでの文化庁とのやり取りによる修正は、内製で進めること。 計画の冊子印刷については、庁内には電子データで共有することとし、国(文化庁等)等の冊子の提出が必須となっている関連機関のみ印刷を認める。 												
第2次評価	-												
作成担当者	生涯学習部		文化財課		文化財係		職名	主任		氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江		担当係長	文化財係長		氏名	塩原 真樹			

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		重伝建整備事業				担当課		文化財課				
目的	対象	重伝建地区内で建築物等の工事を行う者				施策体系		4-1-2				
	意図	歴史的な町並みの保存と整備を行う。				新規/継続		継続				
手段	設計監理及び工事費の補助				会計区分		一般					
					個別施設計画							
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景			
事業費・財源	決算額 (千円)		20,747		決算額 (千円)		18,389		予算額 (千円)		19,973	
	補助金		20,659		補助金		18,294		補助金		19,745	
	その他		88		その他		95		その他		228	
	特定	14,100	一般	6,647	特定	12,470	一般	5,919	特定	13,519	一般	6,454
業務量(人工)	正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・今年度は、奈良井2件、木曾平沢3件の修理修景事業を現在実施中。R5年度分については、奈良井1件、木曾平沢4件の修理修景事業を予定。10月の審議会を経て1月に国庫補助申請をする。R6年度以降については、奈良井地区において地元住民組織と共催で修理修景事業実施希望等に関する相談会を開催し、4件の相談を受けた。今後、10～11月にかけて同様の相談会を両地区で開催し、実施希望者のとりまとめを行う予定。
当年度に生じた新たな問題等	・急激な建築資材等の物価上昇により工事費が高騰している一方で、地区内で修理・修景事業に関する相談は多く寄せられているため、今後の事業実施希望の動向を注視していく必要がある。 ・事業実施には地元組織の協力が欠かせないが、組織の役員が数年で交代する傾向にあり、コロナウイルスの影響により行政と住民組織との会合・情報共有の機会が減少しているため、制度理解が薄れてきている。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・伝建地区の歴史的建造物が建ち並ぶ町並みを未来へ残し、現在居住されている住民の地元に対する誇りの醸成はもとより、この町並みに愛着を感じる方の移住促進、観光資源としても寄与できる事業であるため、今後も引き続き同規模の財源確保を希望する。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	建造物の修理修景(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	2	1	
実績値(事後評価)	4	4	
目標値	5	5	5

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	・奈良井で修理2件、木曾平沢で修理2件・修景1件の修理修景事業を実施した。 ・令和5年度に実施する事業について、審議会の審議を経て、文化庁へ国庫補助金の申請を行った。 ・令和6年度以降の実施について地元で相談会を開催し、事業実施希望者の取りまとめを行った。
成果	・事業の実施により、地区内の電灯的建造物が適切に保存され、町並み全体の歴史的風致が保たれている。 ・住民の文化財保護意識の向上や地域への愛着・誇りの醸成が図られているほか、観光資源としても活用され、地域の振興に寄与している。 ・相談会の開催により、数年先までの事業予定を把握することができ、計画的な事業実施ができています。
課題	・重伝建地区内において、空き家の購入・居住や、観光関連の補助金を活用しての建物内部の工事など、新たな手法による活用事例が増えてきている。 ・その一方で、こうした活用により伝建地区が持つ本来の歴史的・文化的価値が損なわれる恐れがあるため、引き続き住民、移住・定住される方、関係者等と協力しながら、地道に伝建制度の重要性を認識いただける取り組みが必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	檜川地区文化施設運営事業				担当課	文化財課						
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系	4-1-2					
	意図	木曾漆器や宿場町の歴史文化等を学習する機会と場を提供する。				新規/継続	継続					
手段	各施設の運営と企画展、講座等を開催する。				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度 ○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				令和4年度 ○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				令和5年度 ○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催			
	事業費・財源				決算額 (千円) 14,060				決算額 (千円) 15,600			
				施設管理委託料 1,070				施設管理委託料 1,018				
				営繕修繕料 893				会計年度任用職員報酬等 12,286				
				会計年度任用職員報酬等 10,139				その他 2,296				
				その他 1,958								
				特定 1,959	一般 12,101	特定 2,694	一般 12,906	特定	一般			
業務量(人工)				正規 0.07人	会計年度 5.45人	正規 0.07人	会計年度 5.45人	正規	会計年度			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で食体験講座は中止となったが、それ以外の漆塗体験講座、塗箸漆絵付け体験は、感染症対策を講じながら実施した。 木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)を電子データ化する入力作業を継続して行っている。 贛川関所の柵が老朽化及び腐朽により倒壊したため、緊急対策として進入禁止コーンを設置し対応した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化や腐朽により贛川関所の北東側及び南側の柵が雨風により倒壊した。緊急的に進入禁止コーンを設置することで対応したが、柵の先が崖となっており、職員・来館者について転落の危険性が生じている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の柵の修繕費を要望するため、コスト拡充とした。なお、人目につきにくい箇所は木材ではなく鉄材の柵にすることで長期間使用できるよう工夫を図る。 外国人観光客が多く入館する中村邸について、新たに英語版パンフレットの印刷製本費を要望する。

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> 贛川関所の柵の修繕については、提案どおりの実施を認める。安全な状態で来館者が見学できるようにすること。 中村邸の英語パンフレット印刷については認めない。データでの提供を中心に情報発信すること。 														
第2次評価	—														
作成担当者	生涯学習部		文化財課		文化財係		職名	主任		氏名	今福 大輔		連絡先(内線)	3138	
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江			担当係長	文化財係長		氏名	塩原 真樹				

○評価指標

評価指標(単位)	文化施設入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	/		4,284	7,593	
実績値(事後評価)	7,622		9,591	13,364	
目標値	/		16,500	16,500	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	/				
実績値(事後評価)	/				
目標値	/				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で食体験講座は中止としたが、漆塗体験講座、塗箸漆絵付け体験は、感染症対策を講じながら実施した。 木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)の資料台帳について、紙台帳から電子データへの移行作業を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設入館者数は昨年度よりも増加し、コロナ禍前の入館者数に戻りつつあり、多くの方に木曾漆器や宿場町の歴史文化等について知ってもらうことができた。 体験講座を通じて、伝統工芸である木曾漆器の魅力を伝えるとともに、木曾漆器についての学習機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」の資料台帳の電子データ化する入力作業を行っているが、点数が多く、作業工程(入力と写真の撮影と差し込み)も複数あり、時間を要している。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出遺跡公園事業				担当課	平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系	4-1-2			
	意図	国史跡である平出遺跡を保存しながら、郷土の歴史・文化・風土を活かした体験型学習を通じたにぎわいの創出を図る。				新規/継続	継続			
手段		歴史的資源である国史跡平出遺跡を適正に保存するとともに、遺跡公園を体験型学習の場として活用し、来園者が郷土の歴史・文化・風土に親しむ機会を提供する。				会計区分	一般			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催 【ひらいでの里魅力づくり事業から移管】			
事業費・財源	決算額 (千円)		7,484	決算額 (千円)		7,217	予算額 (千円)		8,986	
	営繕修繕料		960	需用費		1,861				
	その他		6,524	その他		5,356				
	特定	212	一般	7,272	特定	236	一般	6,981	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.06人	会計年度	2.07人	正規	0.02人	会計年度	1.86人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・家族単位での来園を促すため、スタンプラリー形式でアドベンチャーin平出の実施をしたほか、観光協会主催の「しおじり探検隊」に協力し、子どもたちが学習する機会を得られるよう努めた。 ・営繕修繕に対応している復元住居の補修は、計画的な改修及び財源の確保からR6-7年度に保存活用計画を策定し、史跡等総合活用整備事業の実施を計画している。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策及びWithコロナを見越した家族単位での学習機会の増加となるような手法を検討する必要がある。 ・復元住居の点検を職員が行っているが、来園者に安心して見学していただくため、専門業者の点検が必要である。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡公園の音声ガイドに塩尻市出身の声優を起用するため、謝礼を予算計上したい。 ・復元住居の点検費用を増額したい。

第1次評価	・平出遺跡公園は、平出博物館の今後の在り方を含めて一体的に検討する必要がある。来年度での音声ガイドの更新や復元住居の点検実施は認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	平出遺跡公園来園者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		6,954	10,431	
実績値(事後評価)	17,166	18,540	28,661	
目標値		19,200	21,600	24,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		
総合評価		A		成果	拡充
				コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様に火起こしや勾玉づくりなどの体験学習のほか、スタンプラリー形式で巡るアドベンチャーinひらいでを開催した。 ・コロナ禍で中止となった遺跡まつりの代替として、復元住居のライトアップイベントや密にならないよう配慮したワイナリーフェスタへの協力を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アドベンチャーinひらいででは多くの家族連れが参加し、遺跡公園や博物館周辺を学ぶ良い機会となった。 ・ライトアップイベントやワイナリーフェスタには市内外から多くの来訪者があり、平出遺跡の認知度向上を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・専門業者が点検をしていない復元住居に多くの来園者が入り、時には子どもが復元住居へ駆け上ろうとする場面もある。事故を防止するために専門的な知見において点検する必要がある。 ・多くのイベント実施に付随する事務量の増加が他業務に支障をきたしており、人員の増加や実施体制の検討が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	埋蔵文化財保護事業				担当課	平出博物館						
目的	対象	市民全般				施策体系	4-1-2					
	意図	破壊される埋蔵文化財を記録として保存し、後世に伝える。				新規/継続	継続					
手段	開発事業等に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及び整理作業を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図るとともに、劣化が進む埋蔵文化財の修復及び保存処理を行う。				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○宅地造成事業に伴う床尾中央遺跡発掘調査 ○(仮称)宗賀中央保育園国道線新設改良工事に伴う小怒田遺跡整理調査				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○広丘東通線整備事業に伴う内畑遺跡発掘調査 ○協立病院非常用電源設備設置に伴う五日市場遺跡整理調査			
事業費・財源	決算額	(千円)	8,529	決算額	(千円)	8,789	予算額	(千円)	15,677			
	会計年度任用職員報酬等		7,388	会計年度任用職員報酬等		7,902						
	重機借上料		532	重機借上料		127						
	その他		609	その他		760						
	特定	0	一般	8,529	特定	422	一般	8,367	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.25人	会計年度	2.34人	正規	0.30人	会計年度	0.03人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・発掘作業に従事する人員を広報を通じて公募したところ、10余名の応募があり人員の新規開拓につながった。
当年度生じた新たな問題等	・発掘作業に従事する人員の雇用の在り方について、外部委託を検討したが現在のところ近隣に受託できる業者はなく、引き続き検討を重ねる必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・R5年以降も、開発に伴う発掘調査が年間数件のペースで見込まれる。基本的に調査費用は、原因者負担の原則により全額特定財源によって賄われるため、年度ごとに特殊事情経費として歳出予算を計上したい。

第1次評価	・床尾中央遺跡は、これ以上宅地造成範囲を広げる予定はないため発掘調査を実施する必要はない。内畑遺跡、五日市場遺跡の発掘調査を実施すること。											
第2次評価	—											
作成担当者	生涯学習部 平出博物館				職名	主任		氏名	牧野 令		連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長			氏名	小松 学			担当係長	平出博物館係長		氏名	大塩 由香

○評価指標

評価指標(単位)	開発等に伴う包蔵地の確認(件)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		82	81		
実績値(事後評価)	191	228	281		
目標値		150	150	150	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	①
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い		
総合評価	A			成果	拡充
				コスト	拡大

○事後評価

取組内容	・開発事業に伴う五日市場遺跡(棧敷)の発掘調査を行った。 ・令和3年度に実施した小怒田遺跡(宗賀洗馬)の資料整理を行い、調査報告書を作成した。
成果	・五日市場遺跡は約300㎡を調査したところ、平安時代の住居跡が3軒確認され、貴重な歴史的資源を発見・記録保存することができた。
課題	・地域の大切な地域遺産の保存と継承のため、発掘作業において市民ボランティアに参加いただく発掘体験を実施したいが、事業者とのスケジュール、調査費用が原因者負担となっていることから、実施が難しい状況である。

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	2	文化・スポーツを通じたにぎわいの創出
目的	本市に根付いてきた文化資源を生かして、市民や来訪者の交流を促進するとともに、総合体育館を中心に世代を超えてスポーツに親しむ機会を提供することで、地域のにぎわいを創出します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	文化施設入館者数	36,359人 R1	29,992人	29,513人	38,000人
	スポーツ施設利用者数	434,998人 R1	386,292人	488,670人	575,000人
市民	歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	24.8% R2	25.0%	24.5%	30.0%
	子どもから高齢者まで誰でもスポーツに取り組める環境があると感じる市民の割合	35.8% R2	42.3%	34.9%	50.0%
	週1回以上スポーツ活動を行う市民の割合	31.4% R2	34.5%	30.4%	40.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然博物館運営事業を最重点化事業とし、移転せずに現施設での運営を継続させることから、ソフト面を含めた施設の充実を図る。 ・体育施設管理運営事業を重点化事業とし、利用者・周辺住民の安全確保のため樹木管理経費を増額し対応する。 ・事業内容を精査し、ひらいでの里魅力づくり事業を平出遺跡公園運営事業に統合する。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然博物館運営では、自然博物館協会員や公民館等の連携により充実した博物館活動を図りたい。 ・各スポーツ関係者がスポーツを通じたにぎわいづくりに主体的に取り組んでいるが、コロナ禍で大規模な活動が制限されてきたため、ノウハウの蓄積や担い手不足に不安がある。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ①	文化資源を活用した交流の促進	手段	博物館等の文化施設の整備、充実を図るとともに、郷土の歴史・文化・風土を生かした体験型学習の提供やイベントなどの開催を通じて、市民の交流活動を支援します。			重点化	方向性	
			事業費	成果	コスト			
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	令和3年度	令和4年度	令和5年度			
1	全国短歌フォーラム事業	社会教育スポーツ課	4,832	5,218	5,540		拡充	現状維持
2	短歌館運営事業	文化財課	9,419	12,229	11,170	△	現状維持	縮小
3	自然博物館運営事業	文化財課	5,671	9,408	10,570	◎	拡充	拡大
4	自然博物館整備事業	文化財課 平出博物館	-	-	11,440	△	拡充	縮小
5	国指定文化財修理事業	文化財課	9,295	-	-	△	現状維持	縮小
6	平出博物館運営事業	平出博物館	14,377	14,228	16,219		拡充	拡大
7	新平出博物館整備事業	平出博物館	514	22,141	435	△	現状維持	縮小
8	ひらいでの里魅力づくり事業	平出博物館	238	139	-	×	休廃止	皆減
9	本洗馬歴史の里運営事業	平出博物館	5,639	5,299	6,476		拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

5 施策の評価(事後評価)

施策指標の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により、文化施設の入館者数は目標を下回った。また、スポーツ施設利用者は学校施設開放が回復傾向ではあるものの目標を下回った。 ・市民指標についても、感染症の影響により様々な活動が回復しなかったことから目標を下回った。
施策の定性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌フォーラムは近年の状況やアンケート結果から、会場に集まって行う大会を行わず、また、学生の部を廃止した。今後は短歌の里として継続性のある短歌普及をどのように進めるのか検討する。 ・令和元年度から協議をしていた自然博物館の移転は、現在の場所での継続開館が決まった。今後は博物館施設の長寿命化、展示室改修などを検討し、賑わいが創出できる施設を目指す。 ・新平出博物館整備事業については、コンストラクション・マネジメントを取り入れることで総事業費やスケジュールの精度を高めることができた。今後は市民説明会やワークショップを行いつつ事業を推進していく。 ・総合体育館運営はコロナの影響により合宿や大会の中止が数多くあったが、拠点スポーツ施設として今後も充実した運営に取り組んでいく。中央スポーツ公園は、テニスコートの移転後の既存施設との一定的な活用を図る。

取り組み②	スポーツによる多世代交流の促進	手段	施設やスポーツ団体と連携して市民のスポーツ活動を支援するとともに、総合体育館を中心に誰もがスポーツに親しむ機会を創出し、スポーツ活動を通じた多世代の交流を促進します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	市民スポーツ振興事業	社会教育スポーツ課	360	749	1,080		拡充	拡大
2	競技力向上事業	社会教育スポーツ課	14,694	16,756	20,266		拡充	拡大
3	体育施設管理運営事業	社会教育スポーツ課	39,555	44,497	53,238	○	拡充	拡大
4	総合体育館運営事業	社会教育スポーツ課	110,600	104,845	104,744	△	拡充	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三						
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋	所属	文化財課	氏名	中村 琴江	所属	平出博物館	氏名	小松 学

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	全国短歌フォーラム事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民及び全国の短歌愛好者				施策体系	4-2-1			
	意図	短歌を通じて、日本語の美しさ、素晴らしさを全国に発信し、塩尻市をPRする。				新規/継続	継続			
手段	・全国短歌フォーラムin塩尻の開催 ・全国短歌フォーラム資料のデジタル化 ・検索・閲覧コンテンツ構築				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第35回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化		○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第36回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化		○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第37回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化					
事業費・財源	決算額	(千円)	4,832	決算額	(千円)	5,218	予算額	(千円)	5,540	
	資料デジタル化委託料		37	資料デジタル化委託料		97				
	全国短歌フォーラム事業負担金		3,741	全国短歌フォーラム事業負担金		3,741				
	その他		1,054	その他		1,380				
	特定	11	一般	4,821	特定	18	一般	5,200	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	一般の部市内投稿者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		141	113	
実績値(事後評価)	187	141	113	
目標値		190	190	190
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・今後の短歌フォーラムの在り方をアンケート結果を踏まえ検討し、今年度の第37回大会から会場での大会は行わず、書面開催に変更し、また、「学生の部」の廃止を決定した。 ・広丘小学校と共同で「短歌の里みてある記」を実施、塩尻短歌館と共催で「塩尻短歌館開館30周年記念シンポジウム」を開催した。
成果	・全国短歌フォーラムin塩尻一般の部には、973名の投稿があり、学生の部には、12,414名の投稿があった。 ・「短歌の里みてある記」には、広丘小学校6年生の保護者と一般13名の参加があった。 ・「塩尻短歌館開館30周年記念シンポジウム」には、80名の参加があった。
課題	・「学生の部」は廃止としたが、市内学校では短歌学習に力を入れており、学生が短歌に触れて、発表する機会は重要である。市内学生を対象とした学生短歌大会の企画を検討したい。 ・短歌人口拡大のためには、若年層へのアプローチが必要である。新たな方法で講演会、イベントを企画していく必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・今後の短歌フォーラムの在り方を検討するためのアンケートを実施した。この結果を取りまとめ、今後の方針を検討する基礎材料としていく。 ・小規模イベント「ティータイムに短歌を作ろう」を実施し、市内外から11名の参加があった。
当年度生じた新たな問題等	・投稿数が大幅に減となったが、はっきりした理由が分からない。募集開始当初から会場での大会を中止としたことや、募集期間が経済活動再開と重なったこと、題詠の題が難しかったことなどの推測の域を出ない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度実施したアンケートの結果を参考にしながら、今後の大会の開催、投稿歌募集、短歌イベント開催等の方針を決めていく。新年度の予算については、通常開催とし、投稿歌募集、賞の選考、作品集作成及び資料デジタル化に係る費用を計上したい。

第1次評価	・今後の方向性を出さずしてコロナ禍前と同規模のイベント開催へ戻すことはできない。R5年度にアンケート結果を踏まえてフォーラムの今後の方向性を庁内で定めて、実行委員会に諮る中で確定させること。R5年度の事業費はR4年度と同様の規模とする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	清水 柚果	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	短歌館運営事業				担当課	文化財課						
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系	4-2-1					
	意図	「短歌の里塩尻」を全国に発信するとともに、短歌を通じ芸術文化の推進を図る。				新規/継続	継続					
手段	遺品・著書等の展示と資料収集・整理保管、短歌大学・企画展の開催				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営				○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営 ○開館30周年記念行事				○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営			
事業費・財源	決算額	(千円)	9,419	決算額	(千円)	12,229	予算額	(千円)	11,170			
	講師謝礼		678	講師謝礼		615						
	営繕修繕料		417	営繕修繕料		2,411						
	害虫駆除委託料		484	会計年度任用職員報酬等		5,604						
	会計年度任用職員報酬等		4,812	その他		3,599						
	その他		3,028									
	特定	298	一般	9,121	特定	337	一般	11,892	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.08人	会計年度	2.57人	正規	0.08人	会計年度	2.57人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、コロナ対策を講じたうえで通常開館し、短歌大学及び企画展等を開催している。なお、今年度は短歌館開館30周年を迎えるため、10月に記念シンポジウムを開催する予定である。 ・4月に登録有形文化財島木赤彦寓居の移築記念式典を開催。以後、短歌館の関連施設として一般公開している。 ・短歌館南面の外壁塗装工事を実施した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・館内非常灯のバッテリーが切れていることが判明したため、今年度予算で対応予定。 ・短歌館および島木赤彦寓居の情報発信や活用を積極的に実施していく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・消火器の使用期間がR5年度中に切れてしまい入れ替えが必要となるため、消耗品費の増額を要望する。 ・応接室のエアコンが故障しているため、取り換え工事を要望する。

第1次評価	・短歌館の来館者数や応接室の使用頻度等を考慮して、費用対効果が見込めないため応接室のエアコン取り換えは認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	企画展・講座等の開催数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		5	6		
実績値(事後評価)	5	14	14		
目標値		15	15	15	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		C		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・島木赤彦寓居移築工事竣工式、短歌館開館30周年記念シンポジウム及び記念講演会、春・夏・秋の企画展、塩尻短歌大学、百人一首講座、春待ちコンサート、百人一首大会等の事業を実施した。 ・短歌館外壁工事や館内照明のLED化、非常灯のバッテリー交換等を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業はほぼ予定通り実施することができた。中でも30周年記念事業の実施は、参加者や地元住民が短歌館や短歌文化を大切な地域文化として守り・伝えていく心の醸成につながった。 ・登録有形文化財である短歌館の修繕や整備を行い、文化財として、また、博物館施設としての機能維持を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・移築・開館後30年が経過している中で、建物内のエアコンや畳などに老朽化等が見られるため、引き続きメンテナンスや更新が必要となっている。 ・百人一首講座は募集定員に達しなかったため、回数を減らし実施した。内容の見直しや募集の工夫が必要となっている。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		自然博物館運営事業				担当課	文化財課		
目的	対象	市民及び市外からの来館者				施策体系	4-2-1		
	意図	自然を学ぶ学習の機会と場を提供する。				新規/継続	継続		
手段		企画展、自然科学講座、自然観察会等の開催、館報の発行を行う。				会計区分	一般		
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営				
事業費・財源	決算額 (千円)		5,671	決算額 (千円)		9,408	予算額 (千円)		10,570
	印刷製本費		415	印刷製本費		317			
	標本同定作業等委託料		1,394	標本同定作業等委託料		1,398			
	企画展示等委託料		100	企画展示等委託料		350			
	会計年度任用職員報酬等		2,637	会計年度任用職員報酬等		6,350			
	その他		1,125	その他		993			
	特定 346 一般 5,325		特定 747 一般 8,661		特定		一般		
業務量(人工)	正規 0.07人 会計年度 2.16人	正規 0.00人 会計年度 3.00人		正規		会計年度			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度収蔵標本のデータベース化(S-NET登録:サイエンスミュージアムネット)は、6,400件の見込みである。 ・専門知識を持つ職員の採用はできなかったが、自然に興味のある会計年度任用職員の採用や元館長の協力を得ながら講座、観察会等を実施した。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然博物館の移転・整備を行う上で、昆虫標本を主とする収蔵品の扱い方や展示・保管の方法などについて、専門的知識が求められる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も収蔵標本のデータベース化を継続的に行うため、本年度と同額の標本同定作業等委託料を要望する。 ・博物館整備や展示、運営に携わる専門職員(自然系分野の学問を修了した学芸員資格取得者もしくは研究者)の採用を強く要望する。 ・2年に1度、紀要の作成を行っており、令和5年度は作成年度となるため、印刷製本費の増額を要望する。 ・人件費以外は現状維持だが、専門職員の採用を要望しておりその経費を含めて、今後の方向性は①とした。

第1次評価 紀要を含めた印刷製本費は、前回紀要を作成したR3年度の決算額と同額の予算計上とする。金額の範囲内で各種資料の印刷を行うこと。
 第2次評価 自然博物館整備事業にもあるとおり、Wi-Fi設置をR5年度には実施しないため、アクセスポイント使用料の予算計上は見送る。

○評価指標

評価指標(単位)	自然博物館の入館者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		2,335	4,996	
実績値(事後評価)	7,718	2,335	8,395	
目標値		6,800	6,800	6,800

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は小坂田公園再整備工事により、年度途中から閉館としたが、今年度は年間を通して開館することができ、事業も自然観察会、企画展、自然科学講座を実施できた。 ・国立科学博物館主管のサイエンスミュージアムネットに収蔵標本6,400件を登録申請したほか、収蔵資料の同定作業を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数はコロナ禍前の水準まで戻すことができた。事業もコロナ禍前とほぼ同規模で開催でき、多くの方に自然を学ぶ機会と場を提供することができた。 ・サイエンスミュージアムネットへの資料登録により、収蔵資料の情報が世界中に発信され、共有が図られる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵標本データベース化は、収蔵標本が約55,000点あることから今後も継続的な取り組みが必要である。 ・魅力ある博物館の運営をしていくためには、収集保管・調査研究・教育普及・展示公開といった事業をトータルで実施していく必要があり、自然分野の専門知識を持つ職員の配置が必要である。

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		自然博物館整備事業				担当課	文化財課・平出博物館					
目的	対象	市民全体				施策体系	4-2-1					
	意図	自然を学ぶ機会と場の提供をすることで、自然に対する正しい知識と関心を高める。				新規/継続	新規					
手段	小坂田公園内の現施設での運営を継続し、現施設の外壁改修工事と収納棚増設を実施する。					会計区分	一般					
						個別施設計画						
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度					
							○外壁改修工事 ○収納棚増設					
事業費・財源	決算額 (千円)		-		決算額 (千円)		-		予算額 (千円)		11,440	
									外装改修		9,053	
									収納棚増設		2,387	
業務量(人工)	正規	0.09人	会計年度	0.00人	正規		会計年度		正規	8.100	一般	3.340

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・昨年度作成した「あり方」を実現できる移転場所について、改めて検討を重ねた結果、小坂田公園レストラン棟の1階部分に移転する予定としたが、市議会及び自然博物館研究会等からは現施設での運営継続の意見があった。
当年度に生じた新たな問題等	・今後、現施設での運営を継続する場合には施設の改修が必要となる。 ①開館以来、建物の全体的な改修を行っていないため外周及び屋根の一部が腐食している。 ②来館者の調べ学習及び同定作業の効率化を図るためWi-Fi環境の整備が必要。 ③資料の収納スペースの不足。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・自然博物館の移転については、移転先及び事業費を精査する中で、担当部では移転せずに現在の場所で開館を継続したい。今後も引き続き博物館として利用していくために外壁及び屋根の整備を希望する。 ・また、Wi-Fiを新設することで、来館者の館内での調べ学習等を推進したい。 ・収納庫の不足については、収納棚を増設することで対応。

第1次査定	・自然博物館は移転せず、現施設での運営を継続することとし、現施設の外壁改修工事と収納棚増設については実施を認める。 ・Wi-Fiアクセスポイントの新設は、収蔵標本や各標本に関する情報が整っていないことからR5年度での実施は認めない。来館者の調べ学習推進につなげるために、まずは収蔵標本のデータベース化や標本に関する情報・説明内容を充実させることに注力し、自然博物館に収蔵されている標本の強みを引き出すよう工夫すること。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	技師	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長		氏名	塩原 真樹

○評価指標

評価指標(単位)	実施設計(建築・展示)及び工事の進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	
実績値(事後評価)		0	
目標値		0	100

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	④
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	・今後も現施設での運営を継続することとなったため、施設の長寿命化や、収蔵庫の不足を解消する方法について検討を行った。
成果	・現施設の長寿命化としての外装改修工事経費や、資料収蔵スペース不足解消のための収蔵棚増設経費の予算計上を行うことができた。
課題	・専門性を持つ職員の配置など人的な体制等を整えた上で、多くの方が訪れる魅力ある施設としていくため、今後、展示の構成内容等について改めて検討し、整備していく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		国指定文化財修理事業				担当課		文化財課				
目的	対象	重要文化財所有者および市民				施策体系		4-2-1				
	意図	文化財の保存・活用を図り、地域の大切な財産として次世代へ継承していく。				新規/継続		継続				
手段	重要文化財建造物の修理工事等の実施				会計区分		一般					
					個別施設計画		○					
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度							
	○旧中村家住宅自火報設備設置工事											
事業費・財源	決算額 (千円)		9,295		決算額 (千円)		-		予算額 (千円)		-	
	工事費		9,295									
	特定	6,321	一般	2,974	特定		一般		特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.25人	会計年度	0.17人	正規		会計年度		正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 重要文化財小松家住宅について、今後の修理内容等を検討した。 修理後の活用については、現在作成中の文化財保存活用地域計画内での措置(取り組み)において、学校や地域住民による活用等を図っていくこととした。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 小松家住宅の公開活用を図るには、建物の修理工事に合わせて、駐車場や建物南側の庭・水路などの周辺環境の整備を実施する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事を実施するにあたり、翌年度の国庫補助金申請時に必要な書類(修理の方針や工事内容、概算費用等)について専門機関への作成委託の経費を要望する。

○評価指標

評価指標(単位)	修理工事等の実施対象建造物数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	1	0	
実績値(事後評価)	1	0	
目標値	2	1	1

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 重要文化財小松家住宅の修理や周辺の整備について検討を行ったほか、その内容について、文化庁担当調査官による現地での指導・助言を受けた。 重要文化財建造物の保存修理について、塩尻市文化財保存活用地域計画で取り組むべき措置として記載した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域計画において、重要文化財建造物の保存修理を、計画の3つの基本方針の一つ「保存の基本方針」の中の取り組み(措置)として記載した。このことで、修理の際に国庫補助の優先採択を受けることができるようになり、大切な文化財を後世へ継承するための事業実施に向けた準備ができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後の活用を検討していくためにも、まずは文化財の価値を損なわないための保存修理、耐震補強を実施する必要がある。 小松家住宅の周辺整備については、国庫補助が活用できるが、建物個別の保存活用計画を作成する必要がある。 個人所有であった重要文化財深澤家住宅について寄附の申し出があり、令和5年度中に寄附受入れをすることとした。今後、市所有となった場合に喫緊に必要な維持管理の経費の予算計上及び将来的な保存活用の検討が必要。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の修復等については、文化財保存活用地域計画に位置付けて実施について検討することとする。計画ができていない段階での予算計上は認めない。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	課長補佐	氏名	塩原 真樹	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出博物館運営事業				担当課	平出博物館				
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1				
	意図	文化の振興を図り、地域資源を活用した学びの機会を提供するとともに、交流活動を促進し、地域づくり人づくりに寄与する。				新規/継続	継続				
手段		地域の歴史や文化に親しみ学ぶことができるよう、平出遺跡をはじめ市内の考古・歴史遺産等を活用した事業を行う。				会計区分	一般				
年度別事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度				
	○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営				
事業費・財源	決算額 (千円)		14,377	決算額 (千円)		14,228	予算額 (千円)		16,219		
	需用費		4,711	需用費		7,065					
	委託料		1,596	委託料		1,551					
	DX化事業委託料		2,475	その他		5,612					
	その他		5,595								
特定		685	一般	13,692	特定	829	一般	13,399	特定	一般	
業務量(人工)		正規	1.01人	会計年度	0.80人	正規	0.92人	会計年度	0.46人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・講座は新型コロナの感染状況に応じて開催の可否を判断し、定員を減らし予約制にて開催している。 ・DX化にて作成した資料をホームページ上で公開するとともに、希望する来館者にはタブレット端末にて実際の資料と比較できるようにした。
当年度生じた新たな問題等	・アバターを活用したオンライン授業は学校の教育カリキュラムに組み込むことが難しいため、違う手法での活用を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・本年度と同等規模の企画展や講座を開催するとともに、費用を掛けずに工夫を凝らしたイベント(ナイトミュージアムや出張展示等)を開催していくため、現状維持としたい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1,992	2,322		
実績値(事後評価)	4,063	4,240	5,148		
目標値		4,800	5,400	6,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	・企画展や講座・講演会を開催した。出張展示をえんぱーくやえんてらすなどで開催した。 ・明かりを落とした夜の博物館をめぐる「ひらいでナイトミュージアム」を実施した。
成果	・企画展には延べ1,727人、講座・講演会には延べ112人の来館があり、市の文化遺産を学ぶ機会を提供することができた。 ・出張展示では多くの人に土器をはじめとした資料を身近な施設で見る機会を創出することができた。
課題	・市内の小学生の社会見学の機会が減っており、歴史の授業に合わせて、地域の文化遺産を知ってもらう手法を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		新平出博物館整備事業				担当課		平出博物館					
目的	対象	市民全体				施策体系		4-2-1					
	意図	後世に継承すべき文化財の適正な保護環境の構築及び文化資源を活用した交流活動の促進				新規/継続		新規					
手段	建設後60年以上が経過し、様々な管理上の課題を抱える平出博物館を、歴史的遺産の確実な保全と継承を図り、文化資源を活用した新たな交流・学習・集客の拠点として整備する。				会計区分		一般						
					個別施設計画		○						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度				
	○基本計画策定				○不動産鑑定 ○用地測量 ○CM委託 ○基本計画策定(繰越)				○基本計画策定委員会の開催 ○歴まち計画策定協議会の開催 ○先進地視察				
事業費・財源	決算額 (千円)		514		決算額 (千円)		22,141		予算額 (千円)		435		
	検討委員会委員報酬		274		不動産鑑定委託料		0		事務費		435		
	その他		240		調査測量等委託料		0						
					CM委託料		12,540						
					基本計画策定委託料(繰越)		9,020						
				その他		581							
		特定 0		一般 514		特定 0		一般 22,141		特定 0		一般 435	
業務量(人工)		正規 1.12人		会計年度 0.00人		正規 1.97人		会計年度 0.00人		正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画策定委員会を開催し、委員会で出された意見等を反映させた。 CM(コンストラクション・マネジメント)業務委託業者をプロポーザル方式により選定した。 CM委託業者を交え、基本計画の内容確認や事業費、スケジュールの整理等を行っている。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 事業費を整理した結果、目標額と大きく乖離するため、事業内容の見直しを行うとともに、補助事業の活用を検討した。しかし、補助事業を活用するためには歴まち計画を作成する必要があり、関係機関との調整や内容の精査、協議会の開催等、業務量が大幅に増加する。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 事業費の整理やスケジュールの見直しに伴い、必要経費を計上する。 都市再生整備計画事業活用のため、歴まち計画作成支援業務料を追加したい。

第1次査定	<ul style="list-style-type: none"> 市民理解や周知が充分でないため、令和5年度は基本計画を基に関係者だけに留まらない意見聴取や周知を優先することとし、当初予算計上は認めない。 合わせて課題である財源の確保のため、社会資本整備総合交付金や起債対象の精査に努めるとともに、前提となる歴まち計画は文化財保存活用計画の内容を活用した内製によって行うこと。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	基本計画・設計進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	4.3	
実績値(事後評価)	3.2	28.3	
目標値	6.5	22.8	100.0

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	③
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画策定委員会を1回開催し、「みんなの博物館」となるよう検討した。また市民のニーズや意見反映のため、市民アンケート調査を実施した。 基本計画(案)について専門業者と共に策定を進めた。 歴史的風致維持向上計画策定に向け、協議会を1回開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画策定委員会では様々な見地から検討することができた。 基本計画策定にあたり、専門業者のアドバイスにより総事業費やスケジュールの精査をしたことにより、精度の高い計画にすることができた。 市民意見の把握ができ、基本計画へ反映することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画は令和4年度中に策定予定だったが、市民アンケート調査の実施により令和5年度になる見込みとなった。 スケジュールは当初計画より延びているが、さらに市民説明会の開催や聞き取り調査を実施する必要がある。 社会資本整備総合交付金の補助要件となる歴史的風致維持向上計画の策定が必要となり、それ以外の財源についても、さらに検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		ひらいでの里魅力づくり事業				担当課	平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1			
	意図	交流や誘客を促進するとともに、地域づくりに寄与する地域資源の利活用を図る。				新規/継続	継続			
手段	地域資源を再検証し、豊かな暮らしを実感し交流する地域づくりを目指し、「ひらいでの里」の魅力づくりに関する方策等についての調査検討を行い、また、その魅力を再認識する取り組みを行う。				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○ひらいで遺跡まつりの開催 ○地域連携講座等の開催 ○こども体験ミュージアムの開催		○ひらいで遺跡まつりの開催 ○地域連携講座等の開催 ○こども体験ミュージアムの開催		【平出遺跡公園事業に統合】					
事業費・財源	決算額	(千円)	238	決算額	(千円)	139	予算額	(千円)	-	
	遺跡まつり実行委員会負担金		142	遺跡まつり実行委員会負担金		110				
	講師謝礼		0	講師謝礼		8				
	その他		96	その他		21				
	特定	0	一般	238	特定	0	一般	139	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.06人	会計年度	0.06人	正規	0.13人	会計年度	0.27人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・平出遺跡公園を会場にワイナリーフェスタが開催されるなど、他部署との連携を通じた魅力発信に取り組んでいる。
当年度生じた新たな問題等	・ひらいで遺跡まつりは開催に向けて準備を進めていたが、開催1ヵ月前時点で新型コロナウイルス感染症が急拡大したことを受け、中止とした。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度のひらいで遺跡まつりは、新型コロナウイルス感染症が急拡大したことにより中止となったが、次年度は運営方法等についてさらに検討を深めたうえで開催とするため、現状維持としたい。 ・本事業はスクラップとし、遺跡まつり実行委員会負担金はR4年度と同額予算を平出遺跡公園事業に移管し計上する。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	遺跡まつり来場者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	/	0	0	
実績値(事後評価)	-	0	0	
目標値	/	4,000	4,000	4,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	/			
実績値(事後評価)				
目標値	/			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	⑦
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	休廃止
総合評価		A		コスト	皆減

○事後評価

取組内容	・コロナウイルス感染症のため、ひらいで遺跡まつりは中止し、代替事業としてフォトコンテストを実施した。
成果	・フォトコンテストは113点の応募があり、平出遺跡及び博物館周辺に訪れるきっかけとすることができた。
課題	・フォトコンテストは、コロナ禍において中止となった遺跡まつりの代替事業であったが、3年間にわたり開催したことで定着した。今後遺跡まつりが開催された場合には、なんらかの方法で継続することを検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		本洗馬歴史の里運営事業				担当課	平出博物館			
目的	対象	市民全般				施策体系	4-2-1			
	意図	地域固有の文化的資源の魅力や意義を市内外に発信することで、資源を活用した交流を促進する。				新規/継続	継続			
手段	洗馬固有の地域文化を継承するために資料調査及び収集保管するとともに、市民が歴史や文化に親しみを持てるよう、地域や学校と連携し、講座や企画展を開催する。				会計区分	一般				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管		○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管		○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管					
事業費・財源	決算額	(千円)	5,639	決算額	(千円)	5,299	予算額	(千円)	6,476	
	講師謝礼		105	講師謝礼		117				
	需用費		1,159	需用費		1,173				
	会計年度任用職員報酬等		3,054	会計年度任用職員報酬等		3,082				
	その他		1,321	その他		927				
	特定	101	一般	5,538	特定	77	一般	5,222	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.04人	会計年度	0.96人	正規	0.03人	会計年度	1.29人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・本洗馬歴史の里協議会委員等に助言をいただきながら、地域の歴史に関する展示等を実施している。
当年度生じた新たな問題等	・入館者数の中間値が昨年度比4割近い減少となっている。夏季の企画展が実施できなかった事が要因と考えるが、今後も展示会等魅力ある企画を検討するとともに、適切な情報発信に努める必要がある。 ・資料館は建築後25年が経過しているため、電気設備を中心に不具合が生じ始めている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・施設が老朽化し、不測の故障等が発生する確率が高いことから小破修繕の経費を計上したい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		1,496	938		
実績値(事後評価)	1,362	2,130	1,364		
目標値		1,600	1,800	2,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	・企画展、釜井庵寺子屋塾、また洗馬公民館との共催により講演会を開催した。 ・洗馬焼の振興のため、レベルに応じた4つの体験教室を開催した。
成果	・洗馬地区にゆかりのある人物や事柄にスポットを当てた企画展や講演会を行い、地域遺産への知識がより深いものとなり、地域のにぎわい創出に寄与することができた。
課題	・講演会への参加者が高齢化しているため、若年層にも興味を持ってもらえるテーマや発信方法を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		市民スポーツ振興事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2				
	意図	市民の体力作りに対する意識の向上と運動の習慣づけ、多様化するスポーツに対するニーズへの対応を図る。				新規/継続	継続				
手段		社会体育指導者等の資質向上のための教室やスポーツイベントの事業を実施する。				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業		○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業		○スポーツ教室等の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業						
事業費・財源	決算額 (千円)		360	決算額 (千円)		749	予算額 (千円)		1,080		
	松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金		0	松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金		500					
	その他		360	北信越中学校総合競技大会負担金		100					
				その他		149					
		特定	0	一般	360	特定	0	一般	749	特定	一般
業務量(人工)		正規	0.05人	会計年度	0.00人	正規	0.05人	会計年度	0.00人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	各種スポーツ教室の参加人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	0	
実績値(事後評価)	0	0	0	
目標値		30	30	30
評価指標(単位)	松本山雅フェスティバル参加団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	8	
実績値(事後評価)	8	0	8	
目標値		8	8	8

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室はコロナ禍により実施できなかった。 ・松本山雅フェスティバルは、コロナ感染状況を見ながら県内8チームによる大会を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・松本山雅フェスティバルは、市内2チームを含む県内8チームの子どもたちによる試合が展開された。参加者には、ブドウの配布や漆塗りのメダルの授与により、塩尻のPRを図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者向けスポーツ教室は、内容が多岐に渡るためニーズを把握し、適任講師を検討する必要がある。 ・松本山雅フェスティバルの主管については、引き続き検討する必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・松本山雅フェスティバルについては、前年度、コロナの影響により規模を縮小し、計画を変更しての実施を予定していたが、市内小学校の感染拡大もあり中止となった。本年度は、施設が利用停止にならない限り実施をする方針で準備を進めている。 ・スポーツイベントの検討については、検討委員会を継続しているが、本年度から外部人材(塩尻Cxo lab)の協力により、新たな塩尻の地域資源を生かしたスポーツイベントの開催について議論を進めている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・松本山雅フェスティバル実行委員会の事務局が社会教育スポーツ課が主管で良いのか、実行委員長の出身母体である商工会議所が良いのか、今後の事業展開を見据え検討が必要である。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室は、指導者向けの講演会など「スポーツ推進計画」に沿った内容を検討する。 ・国民スポーツ大会の開催(2028年)に向けた準備を進める。(先行事例の調査、準備委員会の設立準備 等) ・松本山雅フェスティバルは、今年度並み(県内8チーム)により予算計上したい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		競技力向上事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2					
	意図	市体育協会への事業委託等により、大会の開催や競技力向上を図ることで、市民への競技スポーツの普及と推進につなげる。				新規/継続	継続					
手段		競技スポーツの推進と競技力向上のための各種大会やスポーツ教室等の開催を、市体育協会と地区体育協会等へ委託する。				会計区分	一般					
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助			
事業費・財源	決算額 (千円)		14,694	決算額 (千円)		16,756	予算額 (千円)		20,266			
	体育振興事業委託料		4,080	体育振興事業委託料		4,858						
	地区体育振興事業委託料		2,293	地区体育振興事業委託料		2,709						
	体育協会活動補助金		8,321	体育協会活動補助金		9,189						
				会場使用料		0						
特定		0	一般	14,694	特定	0	一般	16,756	特定	一般		
業務量(人工)		正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規	会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻市民水泳大会は、感染拡大の影響により中止とした。 塩尻市民体育祭は、感染対策を十分に取る中で20種目中19種目を実施し、1,526人の参加者があった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 水泳大会の運営については、近年、運営スタッフの人員不足(タイム計測など素人しかいない)などの課題が表面化しており、継続実施が厳しい状況となっている。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 体育協会との連携を密にし、各種大会などへのスポーツ活動に対して補助を継続していく。 市民水泳大会は、松本市の施設を借用している事、また施設都合で8月下旬の借用となる事、市内小学校は夏休み前に水泳授業がほぼ終了する事などから事業を一旦休止としたい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行

○評価指標

評価指標(単位)	市民体育祭参加者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	/		1,259	1,526	
実績値(事後評価)	461	1,259	1,721		
目標値	/		1,500	1,500	1,500
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	/				
実績値(事後評価)	/				
目標値	/				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の市民体育祭は、平時並みの開催となり、20種目中19種目を実施し、1,721人の参加者があった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 市民体育祭への参加者が前年度より462人増加した。 コロナ禍により地区体育祭の中止や廃止が相次ぎ、中には代替イベントを実施した地区もあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 水泳大会は、松本市の大会に併せての開催やヘルスバの独自事業としての開催など、運営方法の研究を継続する必要がある。 地区体育協会への補助金については、これまでの経過や各地区の状況を把握し、補助金の在り方を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		体育施設管理運営事業				担当課	社会教育スポーツ課						
目的	対象	スポーツをする市民				施策体系	4-2-2						
	意図	市民の体力づくり、生きがいづくり				新規/継続	継続						
手段		スポーツ施設の適正な維持管理による利用の促進				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度				
	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○現行公共施設予約システム管理委託及び運用 ○公共施設予約新システムの運用 ○体育施設樹木管理				○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理				○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理				
事業費・財源	決算額 (千円)		39,555		決算額 (千円)		44,497		予算額 (千円)		53,238		
	体育施設管理委託料		14,262		体育施設管理委託料		15,735						
	電力・上下水道使用料		11,496		電力・上下水道使用料		12,543						
	公共施設予約システム運用		3,327		予約システム等使用料		5,240						
	体育施設樹木管理委託料		930		体育施設樹木管理委託料		933						
	その他		9,540		その他		10,046						
		特定	10,650	一般	28,905	特定	11,274	一般	33,223	特定		一般	
業務量(人工)		正規	0.44人	会計年度	0.35人	正規	0.44人	会計年度	0.35人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		60,817	78,671	
実績値(事後評価)	123,924	114,177	163,879	
目標値		190,000	190,000	190,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 市内体育施設(6施設)について、清掃業務など施設管理業務を市体育協会に委託した。 昨年10月に更新した公共施設予約システムは学校体育施設も対象となり、利用者の利便性向上が図られている。 体育施設周辺の樹木については、予算の範囲内で業者に委託し伐採しているが、近隣住民からの落ち葉や枝落ちなどに対する苦情対応が追いつかず、職員により樹木の伐採、枝打ちを行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 樹木管理が毎年の予算では賄いきれず、職員が対応しているが、体育施設の近隣住民からの要望に十分対応できない状況となっている。中央スポーツ公園については、不特定多数の大人や子供も利用することから、枯れ枝の落下など利用者の安全性が心配される。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 樹木管理委託料のコスト拡大により、体育施設内の樹木管理(特に中央スポーツ公園)に重点を置きたい。

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> シルバー人材センター等に委託し、施設の除草、剪定等を実施し、施設の機能維持を図った。 樹木管理については、予算で補えない箇所を職員で対応した。 中央スポーツ公園を中心に樹木の枝打ち、伐採等を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設予約システムは、学校体育施設も対象としたことで追加予約やキャンセルがシステム上で実施でき、利用者の利便性が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の生長に伴い、職員の手には及ばない枝打ち箇所が多数出てきている。近隣住民からの要望も多数出てきている中、今後、業者へ任せることが多くなると想定され、予算の増額が予想される。

第1次評価	・提案どおりとする。													
第2次評価	—													
作成担当者	生涯学習部		社会教育スポーツ課		スポーツ推進係		職名	主任		氏名	塩原 一徳		連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長			氏名	田下 高秋			担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		総合体育館運営事業						担当課	社会教育スポーツ課	
目的	対象	施設を利用する市民						施策体系	4-2-2	
	意図	施設の稼働率の向上及び利用者の満足度の向上を図る。						新規/継続	継続	
手段		指定管理者制度による効率的な管理運営(R3~5年間)						会計区分	一般	
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用			○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用			○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業			
事業費・財源	決算額 (千円)		110,600	決算額 (千円)		104,845	予算額 (千円)		104,744	
	指定管理料		101,920	指定管理料		98,706				
	開館イベント委託料		4,729	開館イベント委託料		2,970				
	運動習慣事業委託料		1,235	運動習慣事業委託料		475				
	その他		2,716	その他		2,694				
	特定	1,500	一般	109,100	特定	1,500	一般	103,345	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.12人	会計年度	0.00人	正規	0.12人	会計年度	0.00人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会の開催により、運営の課題や改善点について指定管理者と担当課の共有が図られている。 ・コロナにより開催できなかった開館イベント(日体大による集団行動)を本年度に持ち越し、12月25日に開催予定である。 ・トップアスリートによる競技力向上を図るため、本年度、奥原希望選手を招いたクリニックを計画中である。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動習慣改善事業は本年度2年目を迎えたが、昨年度の実績を踏まえ予算を縮小し募集をかけた。昨年度に引き続き応募のある学校もあるが、新規の学校もあり、応募のあったすべての学校で実施ができない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動習慣改善事業は来年度、予算の拡大を検討する。 ・本年度実施できないこととなった、奥原希望選手を招いたクリニックを計画したい。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

○評価指標

評価指標(単位)	施設の利用者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		29,065	49,075		
実績値(事後評価)	-	77,008	93,586		
目標値		60,000	80,000	80,000	
評価指標(単位)	スポーツ大会利用日数(日)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		14	9		
実績値(事後評価)	-	41	52		
目標値		30	30	30	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	④
	有効性	4	高い		
	効率性	4	高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者と月1回の定例会を実施し、利用者の声や施設管理、自主事業などの情報共有を図った。 ・子どもの運動習慣改善事業は、希望する市内小学校4校145名に対して実施した。 ・奥原希望選手によるクリニックは、海外遠征の日程により実施することができなかった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開館以来コロナウイルス感染症の影響で、利用者数が目標値に達していなかったが、指定管理者の努力や大会開催数の増加により前年度から16,578人増加し目標値に達することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会の実施により指定管理者との情報共有の場を引き続き設けていく必要がある。 ・平日昼間の稼働率が低く、指定管理者が自主事業を実施しているが利用者の関心が薄い。利用促進の打ち手の研究とともに、学生の合宿誘致などスポーツツーリズムの検討を進めたい。

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	C	シニアが生き生きと活躍できる地域の創造	プロジェクト	7	生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築	施策	2	生涯を通じた学びと知識や経験の継承
目的	高齢者をはじめ、自発的に活動する意欲を持った市民に対して、生涯を通じた学び合いの場や文化芸術に触れる機会を提供することで、市民一人ひとりの豊かな生活の創造と地域活動の活性化を促進します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	公民館の来館者数	210,356人 R1	127,739人	156,196人	220,000人
	文化会館利用者数	97,772人 R1	41,600人	60,250人	112,000人
市民	図書館や公民館などの利用環境が整っていると感じる市民の割合	70.8% R2	72.0%	69.8%	74.0%
	音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したりする機会に恵まれていると感じる市民の割合	33.6% R2	29.2%	31.5%	43.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習支援事業はこれまで事業を縮小してきており、ロマン大学運営が主な事業となっている。それに伴い、公民館事業の拡充が中央公民館を中心に図られてきた。市民の学びの意欲に答える受け皿として更なる拡充が必要である。 文化会館と総合文化センターを拠点とした市民の芸術文化事業が長く継続されてきた。施設を適正に維持管理し、発表の機会を確保することで拡充を図る。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の長期化による活動の縮小や、団体役員の高齢化に伴い、活動する団体の弱体化が懸念される。行政と活動団体がそれぞれの役割を再認識し活性化を図る必要がある。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み①	生涯学習活動の推進	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	生涯学習支援事業	社会教育スポーツ課	2,288	2,349	3,351	△	現状維持	縮小
2	公民館事業	社会教育スポーツ課	41,863	45,594	45,959	◎	拡充	現状維持
3	総合文化センター管理事業(施設改修)	社会教育スポーツ課	3,829	0	-		現状維持	現状維持
4	公民館分館施設整備事業	社会教育スポーツ課	5,297	32,500	41,491		拡充	拡大

取り組み②	文化芸術活動の支援	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	芸術文化事業	社会教育スポーツ課	1,959	2,856	4,388		拡充	現状維持
2	文化会館運営事業	社会教育スポーツ課	132,720	132,720	134,744		拡充	拡大
3	文化会館改修事業	社会教育スポーツ課	52,910	6,133	20,000	○	現状維持	現状維持

「重点化」欄 ◎:最重要化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

5 施策の評価(事後評価)

施策指標の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の影響により、統計指標は令和3年度に比べて回復してきているが、過去の実績や目標値を大きく下回っている。また、市民指標も一部拡幅したものの、目標を下回っている。
施策の定性評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の影響により生涯学習活動が数年間停滞した。今後、市民活動団体等が活動を再開できるよう可能な範囲で支援することが重要となる。 人数制限や活動制限がなくなることで、結果として芸術文化に触れる機会の回復が期待される。 公民館活動や芸術文化活動が再開していくことで、地域コミュニティの活性化が図られる。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習支援事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民				施策体系	7-2-1				
	意図	生涯学習のための環境と機会の提供				新規/継続	継続				
手段	<ul style="list-style-type: none"> 各年代に応じた学習機会の提供及び情報発信 生涯学習の現状と課題を把握するためのアンケート調査実施 第六次塩尻市総合計画の策定に合わせた、「塩尻市生涯学習推進プランⅣ」の策定 				会計区分	一般					
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金		○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金		○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金 ○塩尻市生涯学習推進プランⅣ策定						
事業費・財源	決算額	(千円)	2,288	決算額	(千円)	2,349	予算額	(千円)	3,351		
	社会教育委員報酬		194	社会教育委員報酬		124					
	ロマン大学事業補助金		398	ロマン大学事業補助金		423					
	その他		1,696	その他		1,802					
	特定	64	一般	2,224	特定	103	一般	2,246	特定		一般
業務量(人工)	正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規		会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	ロマン大学入学者に占める新規入学者の割合(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		59	76	
実績値(事後評価)	84	59	76	
目標値		59	80	80
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ロマン大学は、生涯学習の一環として社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施し、予定していた野外授業も開催することが出来た。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ロマン大学では、1学年時にアンケートを取り、アンケート結果を学習プログラムに反映させることで、内容の充実を図った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症の影響によりロマン大学入学者が減少したが、新規受講者の割合は増加した。新規受講者は、新たに生涯学習を実践し、または挑戦しようとする方々で、引き続き新規受講者の獲得に務める必要がある。 コロナ対応が緩和されたため、参加者に好評の野外授業講座の回数や開催方法の検討が必要である。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ロマン大学は、新規受講者の割合が前年と比べ上昇した。募集人数40人に対し、33人が入学した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、ほぼ予定通り開講している。野外講義は9月以降実施予定。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ロマン大学を体調不良や家庭の事情を理由として、途中で退講される人が例年と比べ多い。一時的な傾向なのか、注視していく。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> ロマン大学は、新規入学者の割合や募集人数に対する入学者の割合が上昇傾向であるため、受講者募集を継続し、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開講する。 塩尻市生涯学習推進プランⅢは、生涯学習及び社会教育に関わる個別計画でR5年度までの計画となっている。R6年度以降の見直しについては、法令によって策定が定められた計画ではないことから、総合計画等、他の計画の補足をしながら進捗管理をするための計画とし、策定のための委託料等は計上しない。

第1次評価	提案どおりとする。										
第2次評価	—										
作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	稲葉 春佳	連絡先(内線)	3133		
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美				

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	公民館事業				担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民全体				施策体系	7-2-1			
	意図	市民の生涯学習を推進すると共に、地域の連携をさらに深めるために、公民館の運営と各種、講座、講演会等を行う。				新規/継続	継続			
手段	中央公民館の運営と地区公民館における各種教室、講座、講演会等の運営を支援する。				会計区分	一般				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度					
	○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進		○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進		○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進					
事業費・財源	決算額	(千円)	41,863	決算額	(千円)	45,594	予算額	(千円)	45,959	
	地区公民館事業負担金		27,655	地区公民館事業負担金		27,684				
	会計年度任用職員報酬等		10,156	会計年度任用職員報酬等		14,386				
	学級講座講師謝礼		790	学級講座講師謝礼		1,096				
	その他		3,262	その他		2,428				
	特定	1,991	一般	39,872	特定	2,107	一般	43,487	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.70人	会計年度	1.16人	正規	0.70人	会計年度	1.16人	正規	会計年度

○評価指標

評価指標(単位)	公民館事業参加人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		5,677	6,468	
実績値(事後評価)	11,988	12,852	19,396	
目標値		25,000	25,000	25,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	②
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	現状維持

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> withコロナを前提として各公民館で内容を精査しながら積極的に活動を行い、地域住民のつながりづくりや学びの場の提供を行っている。 各公民館が社協と連携して、福祉・防災などをテーマにした講座を実施している。 分館役員が一同に会する公民館研究集会对面式で3年ぶりに開催し、役員の学びの場や情報交換、課題の共有の場となった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において分館活動が活発に動いているところと動いていないところの差が顕著になっている。また数年行事が出来ていなかったことにより役員同士の引継ぎが十分に出来ていない。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動は主事の働きにより大きく左右されるため、また限られた予算で最大の効果が発揮できるような人員配置をお願いしたい。

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館では122回の講座を実施し延べ2,021人、地区公民館では747回の講座を実施し延べ17,375人が参加した。 年間を通じてコロナの影響により中止、延期するものもあったが、工夫しながら地域のつながりや学びの場の提供が途切れないう事業を推進した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> withコロナの中、それぞれ工夫をしながら公民館活動を推進した。 各公民館が社協と連携して、福祉・防災などをテーマにした講座を実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> これからの公民館活動について議論、検討する必要がある。 地域課題解決の事業は、他団体との連携を強化していく必要がある。 分館活動がより活発になるよう中央公民館が中心となり、地区公民館の支援を検討・実施していく必要がある。

第1次評価	提案どおりとする。									
第2次評価	—									
作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	中央公民館	職名	主任	氏名	安藤 寿秀	連絡先(内線)	3141	
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋		担当係長	氏名			

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	総合文化センター管理事業(施設改修)						担当課	社会教育スポーツ課		
目的	対象	塩尻市総合文化センター利用者						施策体系	7-2-1	
	意図	快適な生涯学習活動の拠点施設の整備						新規/継続	継続	
手段	計画的な施設及び設備の改修						会計区分	一般		
							個別施設計画	○		
年度別事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	○塩尻総合文化センター改修工事 ・講堂等照明改修 ・消防設備改修			○照明LED化工事						
事業費・財源	決算額 (千円)	3,829	決算額 (千円)	0	予算額 (千円)	-				
	改修工事	3,829	照明LED化工事	0						
	特定	0	一般	3,829	特定	0	一般	0	特定	一般
業務量(人工)	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・利用者のニーズを踏まえ、計画的に事業実施が出来ている。
当年度に生じた新たな問題等	・施設の老朽化に伴い、年々、大小問わず修繕箇所が発生している。建設から40年以上経過しているため、大規模改修を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	—

第1次査定	—									
第2次査定	—									

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137	
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋		担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美

○評価指標

評価指標(単位)	改修実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	0	
実績値(事後評価)	2	0	
目標値	1	1	0

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・館内照明のLED化工事を進めている。工事中に追加施工が必要となる箇所・追加の資材が出たため、工期が延び次年度へ事業費を繰り越した。
成果	・貸室や事務所についてLED化工事を順次実施したことで、照度が確保でき、チラツキが無くなるなど環境が向上している。
課題	・建設から年月が経ち、空調設備やトイレ、非常用電源設備等、施設全体が老朽化が顕著である。 ・施設を改修し今後も利用していくのか、建て替え、別施設への機能移転、施設の廃止等、方向性を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		公民館分館施設整備事業						担当課	社会教育スポーツ課			
目的	対象	公民館分館を利用する住民						施策体系	7-2-1			
	意図	地区及び地区住民の負担を軽減し、生涯学習活動の充実を図る。						新規/継続	継続			
手段	地区公民館、分館の新築・増改築工事に対する補助						会計区分	一般				
							個別施設計画					
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度					
	○公民館分館改修補助			○公民館分館改修補助			○公民館分館改修補助					
事業費・財源	決算額	(千円)	5,297	決算額	(千円)	32,500	予算額	(千円)	41,491			
	補助金		5,297	補助金		32,500	補助金		41,491			
	特定	0	一般	5,297	特定	0	一般	32,500	特定	0	一般	41,491
	業務量(人工)	正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規		会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・新年度以降実施予定の公民館の新築や改修の要望書を各地区から提出いただいた。
当年度に生じた 新たな問題等	・前年度末に新築や改修の聞き取り調査を実施したが、新たに、早急に対応が必要な屋根や外壁の改修及び消防設備の要望や、当年度の工事費高騰による工事内容の見直しによる追加の要望が挙がってきている。逆に、工事費高騰を受け、改修要望を挙げるできない地区もある。
新年度の予算要求 事項(実計補正 する場合は理由)	・令和5年度の改修要望が14地区14件あり、そのうち1件は新築。 ・前年度末の調査結果も加味し、屋根や壁、エアコン設置、トイレ洋式化、照明の改修といった建物の用途維持及び市民の健康維持に必要な改修に対して補助するようにしている。

第1次査定	・本事業における近年の補助額が非常に高額であり全額が一般財源であることから、補助額の平準化ができるよう制度設計する必要がある。R6年度実施事業の地区への募集前に、補助金交付に関する基準を策定し、庁内で協議・決定させて地区へ周知すること。									
第2次査定	—									

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

○評価指標

評価指標(単位)	補助事業実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	4	11	
実績値(事後評価)	4	12	
目標値	4	12	15

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	①
	効率性	1	低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	・地域活動の拠点となる日出塩公民館外10箇所について施設改修の補助金を、町区公民館については新築の補助金を交付した。 ・公民館の新築や改修について、各地区に聞き取り調査を実施した。
成果	・地域活動の拠点施設の機能維持、環境整備に寄与することができた。 ・各地区から令和6年、令和7年の改修要望を聞き取り調査した。主な内容は、施設の老朽化による屋根、外壁、内壁、トイレの改修、温暖化によるエアコンの設置であった。
課題	・築40年以上の建物が公民館全体の半数を占めており、聞き取り調査以降も施設の老朽化による改修についての相談を受けている。 ・改修費がもともと高額になる傾向があったが、急激に物価が高騰しており、区の負担が増大しているため、補助限度額等の見直しを検討する必要がある。 ・年度ごとの補助額の平準化ができるよう事前申請制度の周知と、地区で取り組みに差が生じない方策を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		芸術文化事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	市民及び芸術文化活動者				施策体系	7-2-2					
	意図	市民の芸術文化意識の向上と芸術文化活動者の拡大、活性化により、市芸術文化の振興を図る。				新規/継続	継続					
手段		市芸術文化事業及び芸術文化研修事業の開催、芸術文化事業補助金の交付				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用			
事業費・財源	決算額 (千円)		1,959	決算額 (千円)		2,856	予算額 (千円)		4,388			
	芸術文化事業委託料		860	芸術文化事業委託料		1,156						
	芸術文化事業補助金		90	芸術文化事業補助金		182						
	その他		1,009	その他		1,518						
	特定	0	一般	1,959	特定	0	一般	2,856	特定	一般		
業務量(人工)		正規	1.05人	会計年度	0.66人	正規	1.05人	会計年度	0.66人	正規	会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・事業の実施に当たっては、コロナ対策を講じつつ、会員等の作業量や負担の少ない実施方法を検討している。
当年度生じた新たな問題等	・新型コロナウイルス感染拡大により、市民音楽祭が昨年に引き続き中止となった。 ・市民の方より芸術作品の寄贈を受けている。これらの作品を芸術文化の普及に活用するため、作品の整理を進める必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・今年度中止となった市民音楽祭についても音楽発表練習会の形式で代替行事を実施した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、市民の芸術文化活動の披露の場、つながりの場を維持するため、引き続き芸術文化5事業を実施する。 ・市が所蔵している芸術作品について、より多くの市民に鑑賞していただけるよう、作品の整理や額装を継続していく。

第1次評価	・提案どおりとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美

○評価指標

評価指標(単位)	芸術文化事業参加団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0		34	
実績値(事後評価)	24	64	90	
目標値	175		175	175
評価指標(単位)	芸術文化事業参加来場者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0		850	
実績値(事後評価)	1,200	3,050	3,850	
目標値	8,000		8,000	8,000

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	②
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・塩尻市芸術文化事業5事業のうち、芸術祭、文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの4事業を実施し、音楽祭については観客を入れない練習会を実施した。 ・市内芸術文化活動団体の活動を支援するため、補助金を5件交付した。
成果	・新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、活動者にとっては自身の活動の成果発表の場の提供、市民の皆様には芸術に触れる機会の提供を行うことができた。
課題	・芸術祭、音楽祭、文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの5事業を実施しているが、事業によっては来場者が伸び悩んでいるため、実施内容の見直しや集客方法を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化会館運営事業				担当課	社会教育スポーツ課					
目的	対象	市民及び芸術文化活動者				施策体系	7-2-2					
	意図	質の高い芸術文化鑑賞事業等を市民へ安価に提供する。				新規/継続	継続					
手段		文化会館の管理運営と芸術文化鑑賞事業の実施				会計区分	一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○施設の指定管理				○施設の指定管理				○施設の指定管理			
事業費・財源	決算額 (千円)		132,720	決算額 (千円)		132,720	予算額 (千円)		134,744			
	指定管理料		132,720	指定管理料		132,720						
	特定	0	一般	132,720	特定	0	一般	132,720	特定	一般		
業務量(人工)		正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	文化会館利用者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	18,620		23,651		
実績値(事後評価)	13,550	41,600	60,250		
目標値	112,000		112,000	112,000	
評価指標(単位)	文化会館芸術文化事業来場者数(利用者数内数)(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	4,746		7,022		
実績値(事後評価)	2,779	9,746	15,237		
目標値	27,000		27,000	27,000	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	・新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた制限の中、事業を実施した。
成果	・令和4年度も、コロナの影響により中止をした事業もあったが、対策を講じた上で開催した事業が多かった。また、利用状況については、中ホールはコロナ前の水準に戻りつつある。
課題	・コロナの影響も小さくなる中、利用率や利用者人数がコロナ前の水準に戻っていくか注視する必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・新型コロナウイルス感染症の流行状況や感染対策を考慮しての利用、事業展開を行っている。
当年度生じた新たな問題等	・令和5年10月からのインボイス制度開始によりシステム改修及び端末の更新等の対応が必要となる。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・R3年度実績で、一般団体の利用は全利用人数の約3割、利用料収入は約8割を占めており、新型コロナ収束後は更にこの割合が増えることが想定される。営業目的の利用がされないと入場者数及び利用料収入の減少に直結するため、インボイス制度に対応するための費用を計上した。

第1次評価	・提案どおりとする。									
第2次評価	—									

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137	
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美	

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	文化会館改修事業						担当課	社会教育スポーツ課				
目的	対象	市民及び文化会館利用者						施策体系	7-2-2			
	意図	芸術文化鑑賞事業等の実施拠点を確保する。						新規/継続	継続			
手段	計画的な施設及び設備の改修						会計区分	一般				
							個別施設計画	○				
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度					
	○文化会館改修工事 ・受電設備更新 ・空調自動制御機器更新 ・舞台機構設備マニラロープ改修			○文化会館改修工事 ・コンサートピアノオーバーホール ・建物外壁防水工事(調査業務) ・吊天井耐震化工事(調査業務)			○文化会館改修工事 ・建物外壁防水工事					
事業費・財源	決算額 (千円)	52,910	決算額 (千円)	6,133	予算額 (千円)	20,000						
	改修工事	52,910	改修調査業務委託料	2,035	改修工事	20,000						
			ピアノオーバーホール委託料	4,098								
	特定	48,700	一般	4,210	特定	0	一般	6,133	特定	18,000	一般	2,000
業務量(人工)	正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・改修規模の大きな事業がほとんどであるため、長期的な改修計画の見直しと策定を進めている。
当年度に生じた 新たな問題等	・毎年の改修計画に加え、吊天井の耐震化を含めた大規模改修事業の時期の選定と改修内容の検討を進めていく必要がある。
新年度の予算要 求事項(実計補正 する場合は理由)	・要求額の範囲内で、雨漏り等の原因となる外壁の補修を実施する。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

○評価指標

評価指標(単位)	施設設備改修工事・調査実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	0	
実績値(事後評価)	3	3	
目標値	2	3	1

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・外壁の劣化状況や吊天井の耐震強度について調査を行った。
成果	・外壁の状況や補修工事必要箇所を把握することができた。 ・吊天井は耐震強度が無いことが確定した。
課題	・建設から年数が経過しており、大規模改修が必要である。 ・特に、今回調査を行った大・中ホールの吊天井は大規模地震の際、安全性を担保できない状況であり、早期に改修が必要である。 ・その他、今回調査を行った外壁、安全性が確保できないため使用禁止としている正面玄関の回転ドア、エレベーターなど、今後も利用していくことを考えた場合、確実に改修が必要な箇所が複数ある。 ・これらの改修工事は長期の休館を伴うため、館の運営計画を調整しながら改修時期を検討する必要がある。

令和4年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	包	基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト	プロジェクト	10	地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり	施策	2	知恵の交流を通じた人づくりの場の提供
目的	市民交流センター機能を中心に、知恵と意欲を持つ人材や団体の活発な活動・交流を促進するとともに、時代の潮流に応じた情報の集積拠点として、多様な資源とネットワークを活用し、確かな情報提供と課題解決の支援をすることで、新たな知恵と価値が創出される場を提供します。							

2 施策の指標における成果

指標	基準値 基準年度	達成値			目標値 令和5年度
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数(累計)	29団体 R1	33団体	36団体		40団体
市民交流センター貸館利用率	75.9% R1	69.9%	73.2%		80.0%
レファレンス受付件数	2,314件 R1	2,429件	1,987件		2,500件
図書館の市民1人当たり貸出冊数	10.0冊 R1	10.2冊	9.8冊		10.0冊
市民が中心となったまちづくり活動が活発に行われていると感じる市民の割合	28.2% R2	25.8%	31.9%		36.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から12年を経過した市民交流センターは、施設本体及び設備面で大規模な修繕と機器更新が必要になっている。省エネルギー設備の導入を含んだ機器更新を計画し、補助金を財源として充当することにより、快適な施設環境を維持し長寿命化を図る必要がある。 ・文化財建造物としての価値が高い古田晁記念館の保存活用にあたり、耐震改修を含めた工事の実施が必要になっている。今年度の耐震診断結果を踏まえ、耐震改修工事に向けた設計に着手したいが、工事費も含め財源の確保が課題である。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の拠点として定着している市民交流センターを拠点として、スキルや特性を生かした多様な市民活動により、地域づくりの担い手の幅が広がっている。持続可能な地域づくりに向けて、市民活動の支援と人の交流をさらに促進していく。 ・知恵の交流を通じた人づくりの場を拠点にした「地域づくりにつながる人づくり」を基本理念として複合施設として強みを生かし、進化する図書館として時代の変化に応じた情報サービスを創出することにより、市民主体の地域課題の解決につなげていく。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み	市民活動の支援と人の交流の促進	手段	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
①								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
令和3年度	令和4年度	令和5年度	成果	コスト				
1	協働のまちづくり推進事業	市民交流センター	2,987	3,480	5,067	○	拡充	拡大
2	市民交流センター交流企画事業	市民交流センター	18,028	17,540	21,527	△	現状維持	縮小
3	市民交流センター管理諸経費(施設改修)	市民交流センター	20,966	18,975	23,452	◎	拡充	拡大
取り組み	確かな情報による課題解決の応援	手段	幼児からシニア世代までの幅広い市民を対象とした質の高い総合的な図書館サービスを実現するとともに、利用者のニーズに対応した資料・データの整備とレファレンス等による的確な情報提供体制を充実させることで、多様な課題の解決を応援します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
令和3年度	令和4年度	令和5年度	成果	コスト				
1	図書館サービス基盤整備事業	図書館	59,142	60,968	61,382	○	現状維持	縮小
2	本の寺子屋推進事業	図書館	3,870	2,409	2,689	△	現状維持	縮小
3	市民読書活動推進事業	図書館	1,661	1,581	1,649	△	拡充	縮小
4	図書館事業諸経費	図書館	156,001	155,636	170,284	-	-	-
5	古田晁記念館諸経費(施設改修)	図書館	0	1,529	1,046	◎	現状維持	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

5 施策の評価(事後評価)

<p>施策指標 の 要因分析</p>	<p>・まちづくりチャレンジ事業補助金交付団体は、トライアルの新規採択が3団体、ステップアップの継続採択が5団体で、いずれも自立・継続が期待できる。「まちづくりフェスティバル」やフリーコミュニティでの情報発信、「まちチャレセミナー」によるNPO育成支援など協働のまちづくり推進事業を複数の切り口で効果的に推進しており、NPO活動が多様化し団体の自立性と持続性が高まっている。</p> <p>・市民交流センターの貸館利用については、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、徐々に利用件数が回復し、前年対比で4割ほどの増加となった。様々な活動が再開され、社会変容に応じた新たな活動が生まれることも期待できる。</p> <p>・図書館は感染症対策を行いながら積極的に運営した。多様な分野で確かな情報の取得への需要が高まるなか、魅力的なイベントや講座の実施などにより、利用状況は高水準で推移している。</p>
<p>施策の 定性評価</p>	<p>・市民交流センターは、大きな社会変革のなかで多様化する地域課題の解決につながる活動や将来の地域づくりに資する人づくりの拠点として進化を求めながら運営してきた。情報発信と交流の拠点、地域課題を解決する市民活動の拠点として、DXをはじめ新たな知識や技術の進展を視野に入れながら、時代の変化に対応する交流施設として価値を高めている。</p> <p>・先行きの不透明感が高まる社会状況のなかで、確かな情報や知識を提供する図書館を中核とした複合施設としての強みを生かした運営が求められる。基本的な図書館サービスを充実させながら、課題解決型図書館として多様な市民活動を視野に入れて新たなサービス創出に挑戦し、進化を遂げている。</p>

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	市民交流センター、図書館	氏名	上條 史生		

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		協働のまちづくり推進事業				担当課	市民交流センター				
目的	対象	市民、市民公益活動団体				施策体系	10-2-1				
	意図	市民及び市民公益活動団体等の主体性・自主性の向上や活動の活性化、市民交流センターでの事業の多様化を目指し、団体の育成や活動の支援を行う。				新規/継続	継続				
手段		講演会、研修会の開催、まちづくりチャレンジ事業実施団体への補助金交付により、市民公益活動団体等の育成、支援を行う。				会計区分	一般				
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信		○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信		○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信						
事業費・財源	決算額 (千円)		2,987	決算額 (千円)		3,480	予算額 (千円)		5,067		
	市民活動支援業務委託料		1,428	市民活動支援業務委託料		1,428					
	まちづくりチャレンジ事業補助金		660	まちづくりチャレンジ事業補助金		1,118					
	市民営提案事業委託料		660	市民営提案事業委託料		528					
	その他		239	その他		406					
特定		0	一般	2,987	特定	0	一般	3,480	特定	一般	
業務量(人工)		正規	1.52人	会計年度	0.77人	正規	1.52人	会計年度	0.77人	正規	会計年度

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業の相談窓口が市民活動支援係であることや、期間に縛りなくいつでも相談できることを8月広報で周知した。また、他市町村、民間組織、庁内他部署、市民活動団体等との連携を深め、会議を3回実施するなど、ネットワークを強化した。加えて、プレスリリース等を活用した継続的な情報発信によりチャレンジ事業が周知され、上期の相談件数は8件、そのうち7団体(前年度から継続して申請した団体含む)の申し込みにつながった。(1団体は現在休止中) 下半期に向け、まちづくりチャレンジ事業二次募集の申し込みを検討されている団体に対して、適宜フォローアップを行っている。 市民活動団体はコロナ禍の経験を生かして、オンラインだからこそできる遠方の講師によるセミナー開催や、活動の自粛ではなく、感染予防対策を講じながらの活動実施が多くなった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染再拡大の影響により、市民活動団体はイベントや事業を、延期や開催方法の変更をせざるを得ない状況が発生している。まちづくりチャレンジ事業実施団体も同様で、イベントや事業を一部延期した。 まちづくりチャレンジ事業におけるNPO団体等への業務委託について、可能な条件、受託先等、調査研究を重ねていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業の申込件数や委託事業の進捗状況を鑑みて、協働のまちづくり推進事業についての新年度予算は現状維持で継続したい。 まちづくりチャレンジ事業補助金の4年間の活用により、活動が充実・成長した、市民活動団体hana-tomo(公共施設への緑化推進活動や保育園等での花壇づくり、ハンキングバスケット制作や講習会等の実施団体)に、えんぱーく植栽管理業務を委託したい。

第1次評価	・提案どおりとする。自立した活動が可能となる団体が出てきているため、今後も各団体への支援を継続すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	唐澤 敏樹	連絡先(内線)	4210
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		

○評価指標

評価指標(単位)	まちづくりチャレンジ事業実施団体数(団体)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		4	6		
実績値(事後評価)	2	5	7		
目標値		5	6	7	
評価指標(単位)	研修会や講座等の開催数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		9	11		
実績値(事後評価)	11	12	15		
目標値		10	15	20	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 協働のまちづくり推進委員会による、補助金申請事業の審査、評価及び団体の育成支援等を実施した。(審査会、活動現状報告会など3回開催) まちづくりチャレンジ事業補助金の交付及び団体の育成支援を行った。(団体、事業の充実度に応じた段階的交付:7団体1,119千円) NPO法人などが団体の活動をPRする場を設けるとともに、市民活動を実践するためのノウハウ等を学ぶための講座を開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業補助金の交付を7団体が受け、独自事業を展開した。 市民営提案事業として「市民大学プラットフォームを生かした市民講座」により、市民による市民のための事業実施を進めた。 市民活動団体等えんぱーく利用者同士を交流会を通じてつなぐなど、広く交流を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりチャレンジ事業など市民活動に関する相談件数は、前年と変わらず同数となった。次年度も引き続き制度の積極的な周知や、活動を希望する団体等の相談の機会を多く設けることで、新規の申し込みにつなげ、活動団体の増加及び育成を図る必要がある。 市民活動団体の活動人数の確保や事業拡大のため、団体同士のつながりを強化する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		市民交流センター交流企画事業				担当課	市民交流センター				
目的	対象	市民全体、事業者、各種団体、市外からの来館者				施策体系	10-2-1				
	意図	新しい人々や多くの人々が絶えず行きかう場を創出し、知恵の交流を通じた人づくりを図る。				新規/継続	継続				
手段	5つの重点分野「図書館、子育て支援、青少年交流、シニア活動支援、市民活動支援」を融合した事業を実施する。また、様々な活動のための基盤提供事業を行う。				会計区分	一般					
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施						
事業費・財源	決算額	(千円)	18,028	決算額	(千円)	17,540	予算額	(千円)	21,527		
	IT講座運営事業等委託料		1,500	IT講座運営事業等委託料		1,500					
	市民営提案事業委託料		1,416	市民営提案事業委託料		1,417					
	交流イベント開催委託料		598	中心市街地活性化事業		170					
	その他		14,514	子どもアトリエタウン負担金		273					
	特定	428	一般	17,600	特定	381	一般	17,159	特定	一般	21,527
業務量(人工)	正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果に基づき、希望があった講座を開催している。引き続き、アンケートの実施により市民ニーズの把握を続け、効果的な事業の遂行を図る。 施設の利用者拡大を図るため、国や県、市の新型コロナウイルス感染症大防止策に基づいた施設運営を実施するとともに、事業について様々な媒体を用いて情報発信を行っている。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートで高校生など青少年世代からのニーズが少なかったことや、以前行っていた中高生向けイベントでの集客率を鑑み、今年度の青少年交流向けイベントは開催を見送った。代わりに、子育て世代から希望のあった講座や、世代間交流を目的とした講座を新たに実施した。利用者のニーズを把握するとともに分析を行い、実施に繋げていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 交流企画事業はこれまでの経験が蓄積されているため、どの事業も参加者の満足度が高く、引き続き実施していくとともに、新たな企画を積極的に展開していきたい。特にアンケートにより、子育て世代、中高年等から要望のあった交流事業や、世代間交流のできるイベントを検討、実施したい。 市民営提案事業である「こどもおじり」は、独自性があり一定の評価を得ているため、引き続き委託事業として実施する。 今年度初めて実施する「中心市街地活性化事業」は現在準備段階だが、実行委員会や携わる企業側の反応も良く、成果が見込まれるため、引き続き委託事業として実施していきたい。 窓口職員は会計年度任用職員Ⅲ種に位置付けし、ソフト編成の確保によりサービスの向上を図れているため継続したい。

第1次評価 提案どおりとする。

第2次評価

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	神戸 加奈	連絡先(内線)	4221
最終評価者	市民交流センター長	氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		

○評価指標

評価指標(単位)	貸館利用者人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		15,113	19,563	
実績値(事後評価)	36,316	36,622	50,672	
目標値		40,000	50,000	60,000
評価指標(単位)	講座等参加者満足度(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		98.2	97.8	
実績値(事後評価)	95.5	99.2	97.1	
目標値		90.0	90.0	90.0

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設機能(ICTルーム)を活用し、暮らしや仕事に役立つ「ばそこん基礎講座」を30講座実施した。 ビジネス支援や子育て支援・青少年交流など、多様な内容による講座や講演会を実施し、5つの重点分野を融合した事業を12事業22回開催した。 市民営提案事業による交流企画事業こどもだけの街「こどもおじり」は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで開催した。 センターの貸館業務や証明書交付を行い、丁寧な窓口対応を心掛けた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ライフプラン講座やボドゲばーく、大門ウォークなど新規3事業を実施し、市街地の活性化や青少年の交流に寄与するとともに、事業全体では年間延べ4,092人の参加者を迎え、えんばーくにコロナ禍前の賑わいを取り戻すことができた。事業の実施により、交流を通じた新たな知恵の創造につなげることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代への応援事業、子ども向けの講座や事業を実施するとともに、今後は、シニア世代や青少年世代等が集い、交流や発信を行う場となるような事業を多く展開していく必要がある。 第六次総合計画の策定に合わせ「市民交流センター管理運営方針」の改定が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	市民交流センター管理諸経費(施設改修)				担当課	市民交流センター						
目的	対象	市民交流センターの利用者				施策体系	10-2-1					
	意図	利便性や満足度の向上と施設機能の適切な確保を図る。				新規/継続	継続					
手段	施設(共用部分を含む)の警備・清掃・駐車場整理業務にかかる維持管理の実施				会計区分	一般						
					個別施設計画	○						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○空調機法定点検 ○消防設備整備 ○防水塗装工事 ○自動ドア整備(センサー) ○飛散防止フィルム張替 ○電話交換機取替工事 ○その他修繕				○館内監視用システム整備 ○ロスナイフィルター交換 ○建物西面外壁シール工事 ○衛生ポンプ整備 ○自動ドア整備 ○飛散防止フィルム張替 ○その他修繕				○建物東・南面外壁シール工事 ○音響・映像設備改修 ○その他修繕			
事業費・財源	決算額 (千円)		20,966		決算額 (千円)		18,975		予算額 (千円)		23,452	
	施設改修		20,966		施設改修		18,975		改修工事		19,195	
									その他修理(小破修繕)		4,257	
	特定	17,100	一般	3,866	特定	16,000	一般	2,975	特定	15,800	一般	7,652
業務量(人工)	正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	えんばーく来館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	219,015	210,102	
実績値(事後評価)	500,810	500,203	
目標値	670,000	670,000	670,000

○事中評価

評価視点	有効性	1	低い	今後の方向性	①
	効率性	1	低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画で予定していた、外壁改修工事(北面・西面)を実施した。 ・省エネルギー化を反映する機器設備導入に向け、補助金申請等の検討や準備を行った。 ・空調機器等の突発的な故障の修繕を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁の改修により、雨の浸入があった部分が改善され、景観の向上、長寿命化に繋がった。 ・省エネルギー化に向け、R5年度での設計、R6年度での工事実施の目的が付いた。 ・機器等の突発的な不具合発生の都度、迅速に対応したことにより、利用者の利便性、快適性を損なうことなく施設・設備の維持、管理を行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従前に作成された長期修繕計画に基づく修繕計画から、現状に見合う修繕計画への見直しが必要である。 ・長期修繕計画の見直しや営繕修繕等について、市所有部分とえんばーく管理組合としての管理部分を明確に分ける必要がある。併せて管理運営についても、市とえんばーく管理組合の担当者や業務を区別する必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長期修繕計画について、現状に沿った修繕計画への見直しを進めている。 ・省エネルギー化を反映する機器設備の導入については、省エネ診断を受診しながら研究を行うとともに、機器導入の基礎となる定性的なデータの収集を進めている。 ・設備機器の経年劣化による突発的な不具合の発生に対して、施設の運営への著しい支障をきたさないように弾力的な対応を行っている。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー機器(照明のLED化、高効率エアコン設置、太陽光発電設置)設置工事では、一定期間の閉館が見込まれる。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・当面必要な施設の長寿命化のための改修等について見直しを行い、施設全体のエネルギー消費最適化の観点から、照明のLED化及び高機能エアコンへの機器更新を計画的に行いたい。 ・上記事業は、「地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」(環境省補助金)の充当を予定しているが、太陽光発電設備の設置、また、設計施工含めR7年度までの終了が条件であるため、R5年度中に基本設計・実施設計を行い、R6年度に施工をしたい。 ・工事中の閉館期間については、利用者への利便を損なう範囲を最小限とするよう研究調整し、設計の中で施工計画に落とし込んでいく必要がある。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	4253
最終評価者	市民交流センター長		氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長		氏名	上條 さやか

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業				担当課	図書館						
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				施策体系	10-2-2					
	意図	図書館資料の充実と活用。図書館システムによる安定的な運営				新規/継続	継続					
手段	図書等の購入をする。資料等データの整備を行う。図書館システムを活用したサービス提供を行う。				会計区分	一般						
年度別事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	○図書館電算機器使用料 ○図書館システム更新 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入			
事業費・財源	決算額	(千円)	59,142	決算額	(千円)	60,968	予算額	(千円)	61,382			
	図書館システム使用料		16,179	電算機器リース料		21,290						
	図書データ作成委託料		1,221	図書データ作成委託料		1,191						
	図書購入費		29,999	図書購入費		29,997						
	その他		11,743	電子図書館協働運営事業負担金		0	その他		8,490			
	特定	25	一般	59,117	特定	2,884	一般	58,084	特定		一般	
業務量(人工)	正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規		会計年度	

○評価指標

評価指標(単位)	蔵書数(冊)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		505,405	509,795		
実績値(事後評価)	503,697	505,820	514,522		
目標値		515,000	530,000	545,000	
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 市民の様々なニーズに対応するため、資料の購入と古い資料の除籍を進め、寄贈された資料の登録も行った。 図書のマーク(書誌情報データ)等の作成委託や、RPAを活用した図書の登録を行うことで作業の効率化を図った。 新図書館システム(ELCIELO)を活用した古田畠記念館収蔵品のデジタルアーカイブ化に向け、画像やデータの仮登録と利用しやすい登録方法の検討を行っている。 市町村と県による協働電子図書館「デジとよ信州」の導入をし、市町村と県の導入チームの中でも中心的な役割を果たしている。また、市民の利用拡大のため、積極的な広報と利用者登録を行っている。 新図書館を開館する大桑村と公共図書館システムの共同利用の取り決めを行い、大桑村から市に年間994千円の利用料が支払われることになった。貴舟大桑村長、小口塩尻市長による協定への調印式を通じ、県内図書館に向けたPRになった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 市町村と県による協働電子図書館「デジとよ信州」が8月にスタートした。市内の電子図書館未登録者に向けた積極的な周知と登録率の向上を図る必要がある。 図書館システムを共同利用する大桑村図書館が9月末に開館するため、システム利用がスムーズにできるよう連携していく必要がある。 古田畠記念館の収蔵資料をデジタルアーカイブ化し、図書館システムに登録していく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに対応できる資料・情報のさらなる充実と、提供する職員の資質向上の必要がある。 古田畠記念館の収蔵資料のデジタルアーカイブ化と図書館システムへの登録を行うために、必要な知識の習得や経験のある職員が必要である。

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズに対応するため、資料購入と情報の古い資料の除籍を行った。 図書のマーク(書誌情報データ)等の作成委託を行い、図書館システムでの迅速な資料検索と提供を行った。 図書館システムを共同で利用することになった、大桑村図書館の開館にあたり、システム共同利用を開始した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書データの作成委託でシステムへの資料登録を効率的に行い、迅速な資料提供を行った。 図書館システムの活用で、効率的な貸出、統計業務、レファレンスサービスの提供を行った。 大桑村との図書館システムの共同利用により、県内図書館連携の促進と、システム経費の節減を行った。 電子図書館サービス「デジとよ信州」の導入に関わることで、新たに電子図書館サービスの提供が実現した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズをはじめ、多様な需要に対応するための資料や情報の更なる充実を図る必要がある。 利用しやすい書架づくりのため、適正な除架、除籍と資料購入により資料整備を進める必要がある。 「デジとよ信州」を広く市民に周知し利用登録者を拡大するとともに、運営に関わることで、市民が利用しやすいサービスにしていける必要がある。

第1次評価 提案どおりとする。

第2次評価 —

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主任	氏名	中野 久美	連絡先(内線)	4242
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	本の寺子屋推進事業				担当課	図書館	
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				施策体系	10-2-2
	意図	市民や市外居住の人に向け文化的な体験機会を創出し、生涯学習の場を提供するとともに、本市の取り組みを広く周知する。				新規/継続	継続
手段	講演会やワークショップ、見学会の開催。企画展示の開催。				会計区分	一般	
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	○本の寺子屋講演会開校10周年 ○本の寺子屋講演会書籍出版 ○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示		○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示		○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示		
事業費・財源	決算額 (千円)	3,870	決算額 (千円)	2,409	予算額 (千円)	2,689	
	講師謝礼	1,184	講師謝礼	1,464			
	書籍出版委託料	1,700	費用弁償	254			
	費用弁償	246	印刷製本費用	424			
	印刷製本費用	435	その他	267			
	その他	305					
		特定 691 一般 3,179	特定 0 一般 2,409	特定 一般	特定 一般		
業務量(人工)	正規 0.72人 会計年度 1.57人	正規 0.72人 会計年度 1.57人	正規 一般	正規 会計年度			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示事業では、Instagramで特に10代～40代に人気で新進気鋭の葉っぱ切り絵作家の作品の現物を展示した。葉っぱ切り絵作家の展示は、大手デパート等で行っているが、公共施設では初の開催だった。日常生活において図書館やえんぱーくに訪れたことのない若い世代に本館のきっかけを提供できた。 信州しおじり子ども本の寺子屋事業は、第一線で活躍している講師を迎えるとともに、落語という初のジャンルを取り入れるなど、チャレンジの要素を入れ込みながら、10代以下が魅力を感じるプログラム構成を意識した。 昨年、新型コロナウイルスの感染拡大のため開催を延期した小泉今日子氏講演会を、レザンホール大ホールで会場を満員にして開催することができた。小泉氏講演会への参加者は、特に40代より若い世代で、初めて信州しおじり本の寺子屋講演会に参加した市民が多かった。
当年度生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて参加のある50代以上のリピーターが事業を支えている側面があるが、20代から40代の図書館利用が日常的でない市民に対し、まずは1回参加してみたいと思える講座づくり、PRの方法を検討していく必要がある。 さらに、一度参加した市民が、継続して参加したくなるような魅力のある講座を行っていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	<ul style="list-style-type: none"> 新年度の本の寺子屋講演会事業は、10周年記念として実施した小泉氏講演会に係る予算を除いた、例年通りの予算規模で運営していきたい。 10代以下を対象とした子ども本の寺子屋事業は、大人向け事業と比べ低予算で運営を行っているため、若い世代から図書館利用を習慣化することを目的に拡充していきたい。

第1次評価 提案どおりとする。

第2次評価 —

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

○評価指標

評価指標(単位)	講演会・トークショー・企画展示開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		7	12	
実績値(事後評価)	13	18	24	
目標値		18	18	18
評価指標(単位)	参加満足度(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		86.0	91.9	
実績値(事後評価)	89.0	94.8	93.5	
目標値		90.0	90.0	90.0

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、講演会18回、企画展示6回を開催した。前年度延期とした「小泉今日子氏講演会」をレザンホールで開催することができた。 子どもたちに本の魅力を届ける「子ども本の寺子屋」を開催し、講座やワークショップを実施した。 地元企業や県立図書館と連携した企画展示を行い、図書館利用の拡大に努めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 寺子屋の参加人数は2,133人で過去最高となり、満足度も目標値を上回った。 積極的なプレスリリースにより、全国紙を含む新聞や雑誌などに記事掲載が重ねられ、事業の認知度と評価が高まった。 書籍「信州しおじり本の寺子屋 古田晁記念館文学サロン講演録 古田晁と臼井吉見の55年6か月」を刊行した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 出版社や書店等との連携を更に強化しながら、多様な内容の魅力ある講座を開催していく必要がある。 アンケート調査などにより、若い世代が魅力を感じる講演内容を把握し、今後の企画に反映する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民読書活動推進事業				担当課	図書館						
目的	対象	乳幼児から高齢者までの市民、団体				施策体系	10-2-2					
	意図	幼児・児童の読書活動を推進するとともに、ボランティアを育成する。				新規/継続	継続					
手段	・乳幼児・児童の読書環境充実 ・ボランティア育成と活動基盤の提供 ・学校との連携による講座開催 ・絵本プレゼント				会計区分	一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度			
	OPTAとの協働による親子読書活動の再構築 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				OPTAとの協働による親子読書活動で購入した図書の活用方法を検討 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施			
事業費・財源	決算額	(千円)	1,661	決算額	(千円)	1,581	予算額	(千円)	1,649			
	消耗品費		1,179	消耗品費		1,197						
	印刷製本費		212	印刷製本費		150						
	PTA親子文庫活動補助金		200	PTA親子文庫活動補助金		0						
	市民読書グループ活動補助金		70	市民読書グループ活動補助金		70						
					その他		164					
	特定	0	一般	1,661	特定	0	一般	1,581	特定		一般	
業務量(人工)	正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規		会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・サードブックについては、配布対象や導入方法も含め実現に向けて検討を進めている。 ・PTA親子文庫図書は、市立図書館で保管していた蔵書を各小学校に配布し、学級文庫や学校図書館の蔵書等として活用してもらうよう準備を進めている。 ・PTA親子文庫活動終了後の学校における読書活動の推進と支援体制について、教育総務課と連携し検討を行っている。
当年度生じた新たな問題等	・年度当初に新たな読書活動グループの登録があった反面、新型コロナウイルスの影響による読み聞かせの機会の減少等で、読書活動グループ連絡会の休会や退会を検討する団体が増えている。各団体の継続的な活動をどのように支援していくかを考えていく必要がある。
新年度の予算要求事項(改善・改革案)	・家庭における読書環境の充実のため、ファーストブックとセカンドブックの絵本プレゼント事業を継続実施する。 ・読書離れが進む中学生への読書活動推進の一環として、中学校図書館と連携し「ビブリオバトル」のような、本や読書への興味を引き出す取り組みを行う。 ・読書活動グループ連絡会については、新たな団体の育成及び既存団体への支援を充実する方策を検討していく。

第1次評価	・提案どおりとする。										
第2次評価	—										

作成担当者	生涯学習部			図書館			職名	主任		氏名	小松 久美		連絡先(内線)	4242	
最終評価者	図書館長			氏名	上條 史生			担当係長	副館長		氏名	矢澤 昭義			

○評価指標

評価指標(単位)	PTA親子文庫蔵書数(冊)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		8,245	8,493		
実績値(事後評価)	8,245	8,493	0		
目標値		8,100	8,250	8,400	
評価指標(単位)	おはなし会実施数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		-	58		
実績値(事後評価)	-	-	175		
目標値		-	120	120	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	④
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	・ファーストブック、セカンドブック事業を推進し、子育て支援や子どもの読書環境の充実に努めた。 ・学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を行った。 ・第3次塩尻市子ども読書活動推進計画に沿って事業を行った。 ・PTA親子文庫の蔵書を小中学校に配布し、学校での読書活動に役立てていただいた。
成果	・昨年度は実施を見送った、学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を感染症対策を行いながら実施した。 ・読書活動グループの内部研修や情報交換の機会を設け、読み聞かせボランティア全体のスキルアップを図った。 ・第3次子ども読書活動推進計画に沿って、読書推進を進めることができた。
課題	・幼少期からの読書環境の充実を更に進める必要がある。 ・サードブックの導入検討を進める必要がある。 ・今後も、学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を継続していく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	古田晁記念館諸経費(施設改修)				担当課	図書館			
目的	対象	市民、市外からの来館者				施策体系	10-2-2		
	意図	耐震改修が未実施の施設について、精密診断及び耐震改修を検討する。				新規/継続	新規		
手段	既存の施設について耐震診断を実施し、その結果に基づき耐震改修工事等を行う				会計区分	一般			
					個別施設計画				
年度別事業内容	令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	○古田晁記念館(主屋)耐震診断及び改修計画策定		○古田晁記念館耐震診断委託及び耐震補強・施設改修等の方向性を検討		○古田晁記念館耐震施設改修の内容検討及び調整				
事業費・財源	決算額	(千円) 0		決算額	(千円) 1,529		予算額	(千円) 1,046	
	耐震診断委託料	0		耐震診断委託料	1,529		主屋耐震診断委託料	1,046	
	特定	0	一般	0	特定	0	一般	1,046	
	業務量(人工)	正規	0.13人	会計年度	0.10人	正規	0.20人	会計年度	0.10人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 登録有形文化財の保存活用の助言を仰ぐため、文化財課・公共施設マネジメント課の担当職員と共に文化庁へ出向き、施設の維持や補助金等について具体的に助言を得ることができた。 公共施設マネジメント課の協力のもと、展示棟・渡り廊下・門の耐震診断業務の入札を行い、業者が決定した。耐震診断を行い今後の保存活用について検討していく。
当年度に生じた新たな問題等	<ul style="list-style-type: none"> 展示棟(土蔵)と渡り廊下は文化財としての価値を維持しながら耐震改修を行うのは困難という報告があった。主屋の耐震診断を行い、主屋に展示棟としての機能を移すための耐震等改修や展示品の移設活用方法を検討していく必要がある。 登録有形文化財等の工事に関する補助金は枠が少なく多くの施設が申請しているため、補助金を交付してもらえる可能性が低いことが判明した。今後の耐震改修に向けて財源の確保を検討する必要がある。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	<ul style="list-style-type: none"> 古田晁記念館を継続的に保存活用していくため、展示棟と渡り廊下の施設維持のための耐震改修設計、主屋の耐震診断と展示棟への活用を含めた耐震・改修設計をするための予算が必要になる。

第1次査定	主屋の耐震診断を行い、その結果を踏まえて今後の改修等について方向性を決めることとする。景観や企画展示などのソフト面でも活用方法をR5年度に決定すること。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	137	161	
実績値(事後評価)	314	304	
目標値	250	250	250

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	③
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		C		コスト	縮小

○事後評価

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設マネジメント課の協力のもと、展示棟・渡り廊下・門の耐震診断を行い、今後の保存活用について検討した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 展示棟・渡り廊下の耐震診断結果を受け、公共施設マネジメント課と今後の方向性について検討を行った。 展示棟(土蔵)と渡り廊下は、文化財としての価値を維持しながら耐震改修を行うには、専門的な工法と経費がかかる見込みである。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 記念館を寄贈して下さった古田家の意向に沿った耐震改修や活用方法を検討する必要がある。 展示棟・渡り廊下の耐震診断結果を受け、主屋の耐震診断を行い、耐震改修と施設の有効活用について計画を策定する必要がある。 国の補助金交付は見込みないため、他の財源確保を検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		体育施設整備事業				担当課		社会教育スポーツ課				
目的	対象	体育施設利用者				施策体系		その他				
	意図	市民に安全で快適なスポーツ環境を提供するため、既存施設の耐震性及び長寿命化を図る。				新規/継続		継続				
手段	・施設の安全対策を行う。 ・老朽化が進む体育施設の維持を目的とした改修を行う。				会計区分		一般					
					個別施設計画		○					
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度					
	○体育施設トイレ洋式化改修工事			○中央スポーツ公園管理棟改修 ○テニスコート整備 ○共用倉庫解体 ○野球場調査委託			○体育施設修繕 (営繕修繕料で対応)					
事業費・財源	決算額	(千円)	4,290	決算額	(千円)	59,138	予算額	(千円)	-			
	改修工事		4,290	管理棟改修工事		6,600	営繕修繕料		5,170			
				テニスコート整備設計委託料		4,290	体育施設改修工事		14,600			
				テニスコート整備工事費		43,100						
			共用倉庫解体		5,148							
	特定	0	一般	4,290	特定	45,000	一般	14,138	特定	一般		
業務量(人工)	正規	0.12人	会計年度	0.35人	正規	0.12人	会計年度	0.35人	正規	0.12人	会計年度	0.35人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・日の出保育園、塩尻児童館及び中央スポーツ公園の一体的な整備が協議されてきたが、既存クレートテニスコート(5面)に園舎などの増築・駐車場の整備を行い、西テニスコート南側に新たに4面の人工芝コートの新設することとなった。現在、プレファブ小屋の撤去を行い、来春稼働に間に合うようテニスコート増設工事を進めている。
当年度に生じた新たな問題等	・施工業者が決定し計画的に工事が進められるが、資材の高騰などによる工期の遅延が心配される。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・利用者の声を聞き、利用しやすいスポーツ施設の整備を進めていく。 ・市営野球場のあり方について、利用団体の意見聴取を進めるとともに、広く市民の意見を聴き、六次総での取り組み内容を検討する。

第1次査定	・要求どおりとする。
第2次査定	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名		氏名		連絡先(内線)	
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長		スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行	

○評価指標

評価指標(単位)	スポーツ施設利用者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	114,102	131,061	
実績値(事後評価)	386,292	488,670	
目標値	310,000	320,000	325,000

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	今後の方向性	⑤
	効率性	4	高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・テニスコート整備については、当初設計に盛り込まれていなかった照明設備の設置工事が追加されたことにより、年度内の竣工ができず、工期を延長し繰越事業となった。
成果	・物価の高騰、想定を超える残土の処理費用など、新たな課題が生じたが、施工業者との調整を綿密に行い、利用者の要望に応じた工事を進めることができた。 ・施設修繕は、10施設の18ヶ所の修繕を行い安全性の確保等を図った。
課題	・テニスコートは競技環境の向上により、県規模大会の利用増加が見込まれ、市内の利用者の枠が少なくなることが予想される。 ・施設の老朽化等も重なり改修に対する利用者要望が多岐に渡っている施設があるため、将来を見越した上で緊急性の高い修繕や改修を計画的に実施していく必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習部トイレ改修事業				担当課	社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民				施策体系	その他			
	意図	市民に快適な施設環境を提供するため。				新規/継続	継続			
手段	生涯学習部が所管する施設のトイレを洋式化するため、計画的な改修・整備を図る。					会計区分	一般			
						個別施設計画	○			
年度別 事業内容	令和3年度		令和4年度			令和5年度				
			○施設トイレ改修工事			○施設トイレ改修工事 (総合文化センター)				
事業費・財源	決算額 (千円)		決算額 (千円)		4,224	予算額 (千円)		5,000		
			改修工事		4,224	改修工事		5,000		
	特定	一般	特定	0	一般	4,224	特定	0	一般	5,000
業務量(人工)	正規	会計年度	正規	0.17人	会計年度	0.00人	正規	会計年度		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	—
当年度に生じた新たな問題等	・トイレ3基を洋式化する予定であったが、工事費高騰により2基を改修することとなった。
新年度の予算要求事項(実計補正する場合は理由)	・改修箇所数の見直しがあったが、今後も要望の多いところから計画的に施設のトイレ洋式化を進めていく。

第1次査定

・要求どおりとする。

第2次査定

—

○評価指標

評価指標(単位)	トイレ改修・整備数(基)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	-	2	
実績値(事後評価)	-	2	
目標値	-	3	3

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

○事後評価

取組内容	・2階女子トイレの便器1基の洋式化、多目的トイレの洋式便器1基の更新及び照明のLED化を行った。
成果	・利便性の向上と省エネ化の推進を図ることができた。
課題	・施設の老朽化より排水機能が低下しており、詰まり等が頻繁に発生している。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美